

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第76号 2021年10月

甲南山岳部・甲南山岳会

山 嶽 寮

甲南山岳会通信76号

2021年10月

山 行

真川源流遡行

川口 豊 1

随 想

軽音楽に癒されて
コロナ禍にて

安井 正 10
山本恵昭 14

追 悼

平井一正先生の追憶
國分さんの思い出
故松下哲夫君について思い出す事
おに君のこと
オニ君
松下哲夫君を悼む
オニ君 急ぎすぎ
松下君ありがとう
故・大島輝夫氏のこと

武田雄三 20
石原浩二 24
西村 清 28
大柳香代子 29
鷹巣久美子 30
渋谷一正 31
高橋けい子 32
村田信一 33
越田和男 36

会員短信

(構成) 井上知三 37

お知らせ

2021年度 山岳会行事について 41

ホームページから

掲示板ダイジェスト 今年は「集い」がありません (構成) 大森雅宏 42

編集後記に代えて

寄稿のお願い 塩崎将美 54

－ 山行 －

真 川 源 流 遡 行

川 口 豊 (昭54 経)

真川の源流部を遡行してきた。



一昔前、黒部の源流部によく通っていた。黒部イワナを愛する会というボランティアの組織が地元富山にあって、そこで原生イワナを増やす活動を行っていた。

源流域のネイティブのイワナの生息域が縮小してしまい釣り切られもあって相当数の減少が見られていた。

そこで本流で捕獲したイワナを支流や枝沢上流に移植放流し、自己生産を促すというのが活動の基本であった。

フライフィッシングのかえしのない毛鉤(パーブレス針)での釣りによる捕獲。釣り上げた魚は“ブクブク”と呼んでいた電池式の空気ポンプを使い、魚籠の中で生かしながら搬出する。

薬師沢小屋を起点に活動していたのだが、小屋

の玄関に大きな看板を掲げていたので、ご存じの方もおられると思う。

その小屋に至る登山口の折立は車で入る事が出来るので、太郎小屋を経由した人気の薬師岳登山など人の往来が非常に多い。広い駐車場がシーズンにはすぐに満杯になる。

私も当時シーズンには毎週のように仲間と車で乗りつけて、一気に薬師沢小屋を目指したものだ。しかし、何故か折立の傍を流れる真川の源流を目指す人は少数派のようで不人気であった。ネット検索でも記録が多くはなく情報が得られない。

赤木沢など人気の遡行目的の人は太郎経由で黒部に入るだろうし、駐車場から歩いて遡行釣行をする人は真川の下流の岩井谷とかに入渓することが多いみたいで、しばらくは単純な河原歩きを強いられる真川上流へのアプローチは嫌われているみたいであった。



でも地形図をよく見ると、この真川の源流は上部で幾つかの支流に枝分かれし、シンノ谷などと名前をかえて、太郎山から北ノ俣岳にかけて分岐しながら突き上げていく素晴らしい溪に見える。

飛越トンネル口から登る北ノ俣岳から野口五郎、三俣蓮華へ至る縦走コースも魅力なのだが、この源流部は以前からいつか遡行してみたいと考えていた。

車を留め、歩き出し小一時間で林道歩きは終わる。

そこで沢靴に履き替え、入溪準備をして沢に入る。

この間、出会った人は工事現場の方がおふたり。沢に入ってから入溪すぐに会ったフライフィッシングの男性が1名のみ。やはり不人気？情報通りの単調な河原をしばらく歩く。軽い渡渉で沢を渉るが、あまり魚影を見なかった。

ところがハゲ谷、ヤクシ谷と支流の分岐を過ぎる

頃から溪相も沢らしくなってきた、魚も足元を走るようになった。



魚を見ると竿を出したくなる。そこをぐっと堪えて遡行を続ける。

暫く歩いてシンノ谷の出会いに出た。

この少し手前でちょうど良いビバークサイトを見つけた。少々高台で、先行者の焚火後もある。

今日は少し早い、ここを泊地とする。



ここ最近では主にハンモック泊にしている。

ツェルトを被ってタープ下、焚火傍のごろ寝スタイルはやめた。

昨年、南アでこのごろ寝スタイルで寝たが、焚火の煙が消えた後に蚊の猛烈な襲撃にあい散々な目にあった。顔ぼこぼこ。



なので完璧に蚊帳が張れ、吊るす木があれば場所を選ばない、ハンモック泊に変えた。重量もテントよりは少々軽くて済む。

また最近では繊維素材が著しく進化して、軽くて伸びが良いのだろう。

心配の種だった腰痛への影響も少なくとも快適である。

欠点は風通しが良すぎるので、夏以外は少々寒いかも??

ハンモックの設置と焚火準備の薪集めが出来たら、早速お魚の顔を伺いに出かける。

まずはサイト傍、すぐの流れにテンカラで毛鉤を適当に流すと、一投でバシッと出た。

あまりの早い反応に、こっちがびっくり。先を争うような勢いである。持参食糧の貧困さもあって、今夜のおかず目当てに少々のお魚はキープする気でいたので、とりあえず活かし魚籠に入れた。

その後は正に爆釣であった。釣り人生最高釣果かもしれぬ。

あまりの反応の良さに却って興ざめしてしまった。毛鉤の交換も面倒なくらい。しかし、とにかくおかずの確保。晩ご飯に3つ、朝ごはんに3つキープとした。





1 時間ほどの釣りで二十数匹あげたが、15 センチ以下のものも含めあとは全てリリースした。やはり上流になってくると訪れる釣り人も少なく、プレッシャーが低くなるのかもかもしれない。



2 日目の朝、まずは晴れていてひと安心した。ゆ

っくりと泊地の撤収をし、廻行再開。すぐにシンノ谷に入った。しかし、ここからがまあ大変つらい行程となった。

大岩と大きな倒木の果てしない連続。登っては巻いて、降りてはまた巻いての繰り返し。荷を担いで越えて行くのはひどく苦勞する。もう歳だし、きついのは堪忍してもらいたいものである。



そのうちにはけっこうな滝も出てきた。周囲が壁で巻きも困難、直登しなければどうしようもない 15 mの滝が出てきた時は焦った。

ビレーヤーもない単独行なので、6 mm 20mの渡渉用のフローティングロープしか持参してきていない。

仕方なく荷物を置いて、ぬるぬる滑る滝身を空身で登った。滝上の大きな倒木に心許ないロープをフィックスし、シングルの細紐頼りにそろりそろりと懸垂下降をして降りる。

今度は荷揚げの登り返し。上体に長いスリング

で簡易ハーネスを施し、別のスリングでブルージック接続をして身体を固定。ロープテンションをかけながら荷を担いで再度登る。怖い。怖い。ブルージックのテンションで身体は安定していた。ヌルヌルの滝面であったがどうにか滑る事もなく、登る事が出来た。ホッとする。



その後もきれいな滝が続々と出てきて、沢登りらしくなってきた。なかなか美溪に見惚れる素晴らしい時間であった。

お昼にラーメンを頂いたが、この頃から空模様が怪しくなってきた。ゴロゴロと雷も鳴り出す。雨もパラついてきた。

この所、午後から雷雨との予報が毎日出っていたので、増水などがあった場合は尾根筋に逃げるつもりであったが、実際密度の濃いブッシュをやブ漕ぎして登るのはそう簡単ではない。しかし、概ね源流域にさしかかり、水流も細分化されて来いたのであまり不安はなかった。

14 時頃、いきなりすさまじい雷がすぐそばで落ちた。連続で直後にバケツをひっくり返したような降雨。ぞっとする稲光。

急遽、高めの台地の適当な樹木にタープを張る。気温も一気に下がりはじめた。タープ下のハンモックにツェルトを重ねて被せ、乾いた下着に替え



にかえてダウンも着る。それでも寒さに手足が震えだし、泣きそうになった。シュラフに潜り込み、ハンモックの中でじっと耐えた。



雨はいわゆるゲリラ雨の様相で激しく降り続けている。雷も鳴りやまぬ。タープは防水力があり、この下では濡れることはない。なんとか体温は維持出来た。しかし標高は 2050m あたりで、やっぱり寒い。

沢は伏流水となって、流れも所々で出たり消えたりしてきていたのだが、雨で増水してきたのか、沢音が大きく鳴り出した。

ハンモックの下を押し寄せた沢水が流れていく不安に駆られるが、怖いので見る気がしない。シュラフにくるまってやり過ごす。18 時頃に雨は収まってきた。雷も遠くに移動したようで、ようやく大丈夫と思えてきた。

トイレを我慢できなくなり、ハンモックから這い出してみた。

やはり沢水が相当増えて来ていた。行動食を食べ、火も起こさずにそのままシュラフに潜り込んで長い夜をやり過ごした。

翌朝、鳥のさえずりで目覚めた。

嘘のような快晴になった。水も引いている。しかし、またぞろ雷雨に見舞われないか不安。早々に撤収し、沢を詰め切ることにした。





3 時間ほど頑張って詰め上がり続け、藪こぎを経て、ようやく太郎山と北ノ俣岳の中間くらいの縦走路に飛び出した。



太郎山を経由して、太郎小屋に立ち寄り下山準備。沢靴をトレラン靴に履き替え、ラーメンとビールを頂く。小屋ではたくさんの人。

うれしい。おいしい。街に帰ったみたいだ。





その後、2 時間強の下降で折立へ。車に戻って
登山の終了である。

大岩や流木に妨げられ、荒れた溪相の場所もか
なりあり、遡行しにくさに泣かされた。

しかし、沢山のイワナにも出会え、想像以上
に刺激的な面白い沢旅であった。

2021 年 7 月 31 日から 8 月 3 日の山行



軽音楽に癒されて

安井 正 (昭40経)

中学入学以来もう66年、一度入ったバスケットボール部はしんどくて三日坊主、中2の時 乾君に誘われて入った山岳部もキスリングは重いし、ロックガーデンの岩々には悉く撥ねつけられたが、OB・大学・高校の先輩方は寛容で、受け入れてくれる雰囲気があって留まる事が出来た。以来山岳部・山岳会生活と共に60数年ずっと身近にあって癒されてきたのがポピュラー音楽だった。

<ポピュラー洋楽に目覚める>

中学入学した頃、京都高野に住む姉を訪ねようと京都駅でバス待ちをしているとなんともスマートなメロディーと浮き立つようなリズムが聞こえてきた。

これは明らかに「リング追分」とは違う今迄耳にしたことのない旋律に理屈抜きで「ワア かっこえなあ」と感じ入り、頭の片隅から消えなかった。しばらくしてあのギターと歌はレス・ポールとメリー・フォードという有名なデュオで「Johnny」という曲だった事がわかった。世の中50年代に入ると軽音楽が一世を風靡し始めた時で、帆足まり子の「S 盤アワー」やラジオ神戸の大牧アキ子、末広光夫の「電話リクエスト」が花盛りでラジオに囁き付くうちに歌手が分かり別途曲名も判明した。ちなみに「S盤アワー」は52年4月「電リク」は同年12月スタートし、国産初のLPレコードが53年9月発売、翌年2月EPレコードがダイナ・ショアの「青いカナリア」が国産初と資料に有った。大い

に興味を持ったが、歌詞を覚えて歌うでなし楽器を手にして練習する事もなく唯々聞いているだけだった。

今でもすぐに歌手名、曲名、バンド名が浮かんでくる当時の印象深い楽曲が多くある。

F・シナトラ「そして今は」 D・マーティン「リオブラボー」 P・コモ「キャチ アフォーリングスター」 E・フィッシャー「エニータイム」 N・キングコール「プリテンド」 H・ベラフォンテ「トライ・トゥ・メンバー」 P・ブーン「アナスタシア」 B・ダーリン「マックザナイフ」 R・ネルソン「ハロー・メーラー」他きりが無い。

<余談その1>

高校に入ってからだったか冷泉小屋か位々原小屋でパット・ブーンの「砂に書いたラブレター」のメロディーに乗って「On a day like today…」と歌が聞こえてきた。小生の耳が壊れていたのかネイティブな発音やなあと聞き耳を立てるとそれは例の歌詞の「一つ出たホイの…」とはいささか趣の異なった名曲で、即刻小生の愛唱歌となった。

マイ・フェバリット・シングスの女性歌手では K・スター「サイドバイサイド」 P・リー「ジャニーギター」 D・ショア「ライムライト」 R・ワイリー「アズ タイム ゴーズ バイ」 R・クルーニー「美しい朝」 H・メルル「ニューヨークの秋」等を好んでいた。

ラテン系はキューバから来たマンボ、御大のP・ブラドは「エルマンボ」「パトリシア」。ブラジルからサンバやボサノバはS・メンデスの「WAVE」A・C・ジョビンの「メディテーション」等々いい感じだ。

ロック系は衝撃的だったB・ヘイリーの「ロックアラウンド・ザ・クロック」E・プレスリーの「冷たくしないで」「トゥーマッチ」「思い出の首飾り」そしてP・アンカ、Nセダカが続くが、その後一世を風靡したビートルズ、ローリングストーンズ等もう一つびったり来なかった。入れ替わるように映画とミュージカルのテーマソングや劇中歌が蘇ってきた。「シェルブールの雨傘」「女と男」「刑事」「死ぬほど愛して」他西部劇にも名曲が目白押しだった。60年前後には「回転木馬」「オクラホマ」「南太平洋」「ウエストサイドストーリー」「マイ・フェア・レディ」「サウンド・オブ・ミュージック」などが上映され画面の大きさ美しさは勿論挿入音楽も大好きだった。その流れでイージーリスニングはヘンリー・マンシーニ「ディア・ハート」ユーゴー・ウインター・ハルター「カナダの夕陽」ラルフ・フラナガン「唄う風」他ポール・モーリア、ミッシェル・ルグラン、ビリー・ボーン等々誠に懐かしいが、若い男が一人でムーディな音楽に聞き耳を立てていたなんて今思うと気味悪い。他にエセル中田とかソバッキー白片、大橋節夫などのハワイアンも盛況だった。

このジャンルでは堀田君宅で聞いたハワイアンバンド「ジ インビテーションズ」が凄く洗練されて聞こえ、しばし聞き入った覚えがある。

高校の夏山合宿の前、レーション食とやらを彼の家で作っていた時の話だが、剣の二股に着いた時には残念な結果に相成った。

<余談その2>

当時「甲南音楽祭」が国際会館で文化祭の時に毎年開催され、大学のフルバンド、カントリー、ハワイアン、高校はハワイアンバンドやカントリーバンドも舞台に立っていた。そのハワイアンバンドは皆同級生でスティールギターの竹中統一君、ウクレレ&ボーカルの堀田君、サイドギターの山下君らがメンバーで、押しなべて甲南女子、松蔭、山手といったお嬢さん方によくもてていた様に勝手に推察。山下君は山下憲一さんの弟、数年前天国に。

<JAZZ に目覚める>

グランドの東にあった岡本公会堂は当時大きな建物で二階はホールになっていて催事、ダンス、軽音の練習等に使われていた。

大学のフルバンドが練習していた時、偶々公園でボサーッとしていたら京都でレス・ポールを初めて聞いた時と同じくらいの衝撃を受けた。ひょっとしてこれが JAZZ ちゅうやつかな？しかしなんという曲か分からない。

高校に入った頃ニューポートジャズ・フェスティバルを記録した「真夏の夜の夢」が上映され、同じ頃映画のテーマ曲にモダンジャズが起用され出し、M・デイビスの「死刑台のエレベーター」ジャズ・メッセンジャーズの「危険な関係」なんかが電リク等でもかかるようになったが、一曲の時間が長いので再々はいかからない。ラジオよりやはり生バンドの音の迫力は強烈で、一気にのめり込みジャズのLPを集め出した。

買ったLPの一枚から大学生のバンドが練習していた曲はH・シルバー作の「ザ プリーチャー」

という曲で演奏は「A・ブレイキーとジャズ・メッセンジャーズ」というバンドという事が分かった。このLPは最初の印象が強かったのか今でもよく聞く。

当時のなけなしの小遣いはマイルスデイビス、ジャズ・メッセンジャーズ、ソニーロリンズ、クリフォードブラウン、チャーリーパーカー、スタンゲッツ、キャノンボールアダレー、レッドガーランド等々のモダンジャズのLPに変わった。70年代からはCDのレーベルが出揃い、掛ける手間要らず且つ安価盤が出始めた事もあってCDの購入が多くなった。

スイングジャズ、ディキシースランドジャズ、ヴォーカル等興味の幅が広がったが、モダン畑ではフリージャズの台頭やM・デイビスがヒュージョンに向かいはじめ、熱が冷めてしまった。その穴を埋めるようにビッグバンドは「カウントペーシー楽団」ディキシースランドは「クリス・バーバー・ジャズ・バンド」「ファイアハウス5+2」ヴォーカルはミルス・ブラザーズ、サラ・ボーン、エラ・フィッツジェラルドを好んで聞いた。

特にペーシー楽団をバックにミルス・ブラザーズがスウィングしまくるLPは珠玉の一品。

<余談その3>

P・ブーンやP・ペイジの透き通るような声と違いサラ・ボーンは黒人独特のくぐもったかすれ気味の粘っこい声が好きで「ラバースコンチェルト」なんか今も時々聞く。

我々は事ある毎に「部歌」を歌うが小生歌詞がうろ覚えなのと歌う事自体好きでないので口パクも屢々、鶴木さんも口を大きく開けて朗々と歌い上げるようには見えなかったもので、歌うのは勿論

他人の歌を聴くのも関心が無いのではと思っていた。

鶴木さんが中央市場に勤めておられた頃だったか、「ヤッサン、サラ・ボーンはええ。毎晩聞いとんじゃ」。一瞬耳を疑った。最近、サラ・ボーンを聞くと鶴木さんを思い出す。

<余談その4>

退職してしばらくして堀田君、前述のハワイアンバンドのメンバーと三人で家飲みするようになり、何かの拍子で堀田君が「お前リズム感あるからベースやれや、バンドの評価はベースで決まるから」と強烈なベンチャラを宣った。私も暇だし、おだてに乗かってネットでエレキベースを買い求め、弦を弾いたら腹を揺さぶる生のベース音に自己陶酔。「努力したら俺もレイブラウンの真似事くらいは」と錯覚してしまったのが間違いの元、ベースの重い事重い事、堀田君から出された宿題もさっぱりうまくいかない事も相俟って肩が凝って仕方がない。練習をさぼり出したら彼も察したのか宿題も出さなくなった。私の「ヤスイ タダシ オンベイス」の夢は半年ほどで敢え無く破れた。

<S盤アワーからコロナ禍まで>

ラジオの「S盤アワー」「電リク」「ジェット・ストリーム」からのポピュラーや、なけなしの小遣いで集めたLPやCDからのJAZZは聞き方が一生懸命だった気がする。

しかし昨今PCのユーチューブで視聴しているのは聞き流しているような感じ。とは言え50年代の演奏でも白黒ながらライブの動画がアップされている事があり嬉しい。PCに外付けスピーカーを付

けると音も落ち着くしボリュームも上げられるので、好きだった曲を探してよく視聴している。

どの音楽分野でも分野毎のエッセイが沢山あるように、JAZZ に関するエッセイも豊富だ。

植草甚一、油井正一、岩浪洋三、相倉久人、小川隆夫といった面々の本は教科書より真面目に読んだ。特に植草甚一の語り口は親しみやすく好きだった。

昨年来、外出自粛中ユーチューブだけでなくLPを掛けることも増えた。

必死で集めていた頃のレコードの買い方は「スイングジャーナル」誌のレコード紹介欄を見て「評論家のお勧め」をレコード屋で求め、試聴して選ぶこと無く主体性が薄かった。

この頃レコードを取り出しターンテーブルに乗せ、アームを乗せ、ジャケットを眺め、ライナーノーツを読み返す一連の流れはなかなかいいなと感じている。これはユーチューブでは味わえない楽しみである。

そして LP をつらつら聞いていて、やはり聞く耳を持った人の推薦盤は名盤やと思うものもあれば、あれこんなやつかなと違和感を感じる物もあるが、それもまた楽しい。

タベ食べたものが思い出せない人間が大昔を振り返る事に些か無理があり、時系列的に行ったり来たりした文章になってしまいましたが、コロナ禍でのステイホームも好きな軽音楽で随分癒されたなとつくづく思いました。



コロナ禍にて

山本恵昭（昭56理）

コロナ禍で、遠出の山行はできるだけ自粛しています。でも、年々体力の低下を実感している身としては、家でじっとしていることはなかなか辛い。少しでも体力を維持するためにと、時間があれば近郊のハイキングに出かけています。しかし、近場の山ばかりでは、どうしても限られたコースを繰り返して登ることになり、次第にマンネリとなり飽きてきました。そこで、ただ歩くだけではなく、何かもっと楽しむための変化と工夫が必要と考えました。

1. 古い用具を再利用して使ってみる。

以前、よく言われた「地球にやさしい」というフレーズは、最近あまり聞かなくなった。それに代わって、「SDGs、持続可能な社会」という言葉が世間にあふれている。まあ、どっちにしろ、貧乏性の私としては、「財布にやさしい」生活の一択しかない。

そんなこんなで、このコロナ禍の制限ある日々に、古い山用具を引っ張り出して、現役復帰を図ってみた。残り少なくなった脳細胞をフル活用し、いろいろ考えて工夫するのも、また楽しいのである。

・トレッキングシューズ

昔使っていたような皮の登山靴を、使わなくなって久しい。最近では、もっぱら布製のトレッキングシューズである。軽くて手入れが簡単なので、特にハイキングにはもってこいだ。しかし、トレッキング

シューズには、底剥がれという致命的な欠陥がある。5年ほど経つと、靴底のウレタンや接着剤が劣化して剥がれてくる。使用後の保管の仕方によってその寿命はもう少し延びるが、それも時間の問題である。まあ、それほど高価なものでもないのので、新しいものに買い替えればよいのだが、いろいろな山を共に歩んできて足になじんだ靴を捨ててしまうのは忍びない。そこでボンドを塗って修理をして使っている。しかし、ボンドでは1、2年経つと剥がれてくるので、また塗り直す。今使っているトレッキングシューズは、そんなことを繰り返して、もう15年ほど使用している。

先日また剥がれてきたので、今度はボンドではなく別の方法で修理を試みた。工作などで接着に使われているグルーガンである。グルーガンとは、スティック状の酢酸ビニル系樹脂を熱で溶かして接着する銃のような形をした道具である。100均ショップでも売られている。グルーガンの先を、靴底の剥がれたところに差し込み、溶けた樹脂を流し込む。20秒ほど圧着していると、樹脂が冷えて固まるので接着完了。失敗したら、再びグルーガンの先で温め直すと、すぐに剥がすことができる。コツは、樹脂を押し出す前に、グルーガンの先で接着部分をよく温めておくことである。これで接着して数回山で使用しているが、今のところ、ボンドよりもしっかりと貼り付いている。これからも、この靴をまだ使い続けられそうである。



グルーガンで靴底修理

・ザック

大中小といくつかあるザックの中で、やはり使い勝手の良いお気に入りのザックほど使用頻度が高く傷みが激しい。

テント泊でよく使っていた60リットルザックの雨蓋ポケットのファスナーが壊れてしまっていた。摩耗により、閉めたつもりのポケットがいつの間にか開いてしまうのである。これでは安心して使用できない。

もう一つ、背負い紐が壊れた別のザックがあった。もうこれは使用に耐えない。そこで、このザックの雨蓋を取り外して若干の裁縫を施し、先ほどのザックに取り付けてみた。なかなか使えそうである。オンボロザック2つから、使用可能な1つができた。色がアンバランスであるが、唯一無二、他の人のザックと間違えることもないと考えると、これもいいかも。

日帰りでよく使う30リットルのザックは、構造がシンプルでとても使いやすい。特に、山菜やキノコ狩りのような藪漕ぎ必須のような場合に、枝に引っかかることもなく、とても重宝している。でも、このザックは、もうナイロン生地が劣化してきて、背面

はもうボロボロである。捨てるという選択肢も思い浮かぶが、日帰りなら使っていて壊れても何とか対応できると思うと、ずるずると使い続けている。なぜか、家に昔流行ったフレームザックのフレームだけがあった。このアルミフレームに、ぼろザックを固定してみた。これだと背面がボロボロでも問題ない。逆に、背中に空間ができて夏場は快適である。まだまだ現役使用できそうである。ただし、藪に入るとフレームに枝が引っかかり、まるでクモの巣につかまった虫みたいになり、ストレスがたまる。



ボロザック

・ツェルト

我が家には、ツェルトが3つもある。その内の2つは山行に応じて使用しているが、1つは昔風の重い布地でできており、入口もない被るタイプで、使うこともなく眠ったままである。そこで、このツェルトを惜しげもなく切り開いて、車の後ろに水浴びスペースを作ってみた。

山を下りたら温泉にというのが、お決まりのパターンであった。しかし、最近は高い割には趣のない温泉も多い。それに時間とお金を使うなら、とっとと車を走らせて高速の渋滞を避ける方が良く

思うようになってきた。もちろん、麓に個性のある良い温泉があれば、当然温泉へとなるが。

というわけで、下山した駐車場の隅で、濡らしたタオルで体をふいたり、人がいなければ車に積んだポリタンクの水を浴びたりして、家路につくことがふえてきた。そこで、車の後ろドアを開けて、切り開いたツェルトを紐と洗濯バサミで吊るしてみると、手頃な水浴びスペースが出来上がった。汗まみれになって下山した後、これをセットしてさっと水を浴びて着替え、快適に帰ることができる。穴を補修したガムテープの剥がれ跡が、学生時代の古き良き思い出をよみがえらせてくれる。



ツェルト水浴びスペース

・水筒

500mlの広口ペットボトルが水筒として重宝している。これはコロナ禍以前から使用しているが、最近なかなかこのタイプのペットボトルを使用している販売飲料が見当たらない。海外では、この広口のペットボトルでジュースやスムージーが販売されていることが多い。そこで、海外旅行の自分用お土産は、飲んだ後の空のペットボトル。現地の言葉で書かれたラベルが、いろいろな思い出と共に楽しさを倍増させてくれる。

テント泊用の水タンクは、折りたためるタイプが便利である。市販品も使っているが、折りたたむ分だけ損傷が激しい。そこで代理品として使用しているのが、大腸カメラ用の下剤容器である。年齢的にもできるだけ定期的に人間ドックを受けるようにしているので、手に入りやすい。イメージさえ気にしなければ、結構丈夫で持ち手もあり約2リットル入るので、水タンクとして最適である。何よりも、検診1回きりで捨ててしまうにはもったいない。大腸検診を受けられた方、ぜひお試しください。



再利用水筒

2. 自作「おにやんま君」を検証

今、アウトドア好きの人達の間で話題になっているおにやんま君。オニヤンマは、最強のトンボでハチでさえ捕まえて食べてしまう。そんなオニヤンマの形態を真似したアクセサリーを帽子などにつけておくと、蚊やアブ、ハチが天敵のオニヤンマだと思って逃げていくそうである。つまり、薬品を使わない虫避けになるとのこと。千円ちょっとで市販品もあるそうだが、相当な人気で売り切れ続出。なかなか手に入らないらしい。転売屋が、倍ほどの値段で売っていたりもするそうである。フリーマーケットなどでは、様々な手作りおにやんま

君が売られていることがある。中には、羽を省略し、黒と黄色の胴体だけのものもある。売主は、それだけでも蚊に刺されなかったとアピールする。面白そうなので、自分でも作ってみた。そして、試作とハイキングでの検証を繰り返してみた。

試作第1号は、割りばしに黒と黄色のビニルテープを巻いて作ってみたが、検証する前にどこに置いたのか行方不明になってしまった。最近こういうことが多いので困ったものだ。

次に、黒い太紐に黄色の毛糸を巻いて作ってみた。それを体に取り付けて、摩耶山に行ってみた。沢山付けているとなかなか恥ずかしいので、あまり人のいない黒岩尾根コースを選ぶ。帽子に一つ、半そでシャツの袖に左右一つずつ、半ズボンの裾外側にも左右一つずつ、ぶら下げるように取り付けた。そんな風にして、汗をかきかき急な登山道を登りながら、虫たちの様子を見てみる。

帽子のつばの右側、視界ぎりぎりにぶら下げていると、目の周りを飛び回るメマトイと呼ばれるハエがほとんど来ない。たまに、左から飛んでくるが、揺れるおにやんま君を意識してか、しばらくするといなくなる。これはなかなか効果があるかも。



帽子に

シャツやズボンにおにやんま君をつけていると、歩いている間は蚊に刺されなかった。しかし、立ち止まると、ひざの内側をかまれた。効果は、おにやんま君の近くの限定された範囲のみのようである。



半ズボンに

3cm ほどのアブが体の周りをぐるぐると飛び回りますが、おにやんま君の効果を過信して油断していると、腕やふくらはぎを3か所かまれた。アブには効果がないようである。

この日の検証の結果、もっとアピール力が強いものが良いのではということで、キラキラテープを使って目立つタイプを作ってみた。庭での予備検証では、蚊に効果あり。と思っていたら、じっとしていると、おにやんま君のすぐ横に蚊が止まる。どうやら、おにやんま君の模様を認識しているというよりは、何か目立つものが揺れ動くので虫達が避けているだけのようである。



キラキラバージョン

そこで、いろいろなタイプのおにやんま君を作って、何度か摩耶山で検証してみた。赤おにやんま君や青おにやんま君、マツケンやんま君(ゴールドタイプ)などと共に、黒岩尾根経由で、摩耶山上の掬星台へ。人の少ない黒岩尾根は良いけれど、人が多い掬星台では相当恥ずかしい。最近、カラフルでオシャレなアウトドアウェアを身にまとった登山者が多い中、ただでさえ作業服に麦わら帽子の私は怪しい。それに、さらに体のあっちこっちにヘンテコなトンボがブラブラ。全く、今は亡き志村けんさんの「変なおじさん」状態。でも、本物のおにやんま君を帽子に付けている人がいたりして、いろいろな人とおにやんま君談議に花が咲く。人とたわいのないことで話をして笑いあえることが、こんなにも楽しいということを、コロナ禍が実感させてくれた。検証結果は、基本前回と同じであった。そして目立つものほど効果があった。

もっと精巧に作られた市販品の効果は知らないが、自作おにやんま君についていえば、オニヤンマ模様である必要はなく、目立つものが揺れ動いていることで、小型のメマトイや蚊は逃げていくようである。そして、そんなものには動じないアブには、効果がなかった。



赤オニヤンマ



いろいろヤンマ

貧乏性から始まった古用具の再利用。でも、いろいろな古用具を棚から引っ張り出して修理していると、その用具を通して過去の様々な思い出を脳の片隅から引っ張り出してそれに浸るという、とても充実した時間を持つことができました。

おにやんま君は、たわいのないアクセサリですが、新しいことに興味を抱き、いろいろ試してみる機会を作ってくれました。年齢とともに萎んでい

く好奇心を刺激できたように思います。

幸せな生活には、数々の良き思い出と未来への好奇心が欠かせない。そんなことを気づかせてくれたコロナ禍です。

なかなか思うようにいかない日々が続いていますが、いろいろな楽しみを見つけながら、できる

だけ体力と気力を維持していこうと思っています。新型コロナウイルスに負けないように、そして、いつの日か、また大きな山行に出かけることができる日が来ることを期待して、過ごしている今日この頃です。

甲南 AC メンバーに関係するあれこれ

大阪市立美術館所蔵の石像彫刻

山口コレクション

旧関西信託（現在三菱 UFJ 信託銀行となっている東洋信託銀行の前身）の社長などを務めた関西の実業家、山口謙四郎（1886-1957）氏が収集されたもので、中国の石造彫刻 125 点・金銅仏 5 点・工芸 94 点の計 224 点からなり、本館には昭和 52 年・53 年に譲渡されました。山口謙四郎氏は特に中国の石像彫刻に造詣が深く、石仏は北魏の天安元年（466）銘仏坐像をはじめ隋・唐にいたるまで、基準作ともなる紀年銘を持つ優品が揃い中国仏教彫刻史を概観することができる日本屈指のコレクションとなっています。



石造 菩薩交脚像 北魏時代 5 世紀後半

大阪市立博物館ホームページより

山口謙四郎氏は、旧制高等学校山岳部のメンバー 山口省太郎氏（旧 10 理）・山口良夫氏（旧 10）・山口雅也氏（旧 13 文）の御父上です

— 追悼 —

平井一正先生の追憶 (2021年2月15日逝去)

武田雄三 (昭39経)

1995年(阪神淡路大震災の年)、神戸大学を定年退官され甲南大学理学部教授に就任された平井一正先生は、甲南大学山岳部にとって正に救世主、その頃山岳部は顧問を引き受ける教員がなく、存亡の危機にあった。当然のごとく、平井先生に顧問就任を打診することになるが、平井一正氏といえば岳界での超大物。果たして何事も基だエエカゲンな甲南山岳部・山岳会に馴染んで頂けるのかと大いに危惧する声もあったなか、当時の学園理事長で山岳部OBでもある小川守正さんからの顧問就任の要請に快諾をいただいたのだった。聞けば先生は既に自ら山岳部に出向かれて、部員と接触されていた。

以来、山岳部の顧問としてご指導を賜った数年間、その後の甲南山岳会の名誉会員としての二十余年間のご交誼にあずかることになった。先生の気さくなお人柄にふれて、甲南の諸氏は安堵したのだが、先生の長年の山関係の濃く幅広い交遊の中で、ほんの一隅に過ぎなかったであろう甲南の印象はどうだったのか。甲南山岳部・山岳会の機関紙『山嶽寮』に度々寄稿されているが、先ずは全く違和感なく、旧制高校出身の七十代、八十代から若手OB連中までの年齢を感じさせない和気藹々な山好き集団に気を良くされたらしい。「甲南のお年寄りには元気ですな。食べ物が違うのかな」などと冗談を飛ばされていた。甲南在職中の1999年夏には「センチネル峰登山・スワート・ヒンズークシ踏査隊」に参加された。六十代3名、五十代1名に二十代の現役山岳部員2名からなるパーティーで、68歳で最年長の先生は顧問として計画段階から参画された。5260mのセンチネル峰を

望見して、隊員から「先生はチョゴリザ以後まだヒマラヤの頂上を踏んだことはないでしょう、ぜひ登りましょう」などと言われ、何とかして登るつもりで4770mのC-1まで頑張れたのだが、高所障害をとまなう体力の限界を自ら判断、登頂を断念され悔しい思いをされた。この隊では最年少の現役部員が体調を崩し、高山病を発症、肺水腫の兆候を見るに至り、米山悦郎隊長が付き添って緊急下山させることに。口バで8時間、車で一昼夜不休の25時間でイスラマバードの病院で入院治療を受けことなきを得たが、かなり危なかった。数々のヒマラヤ遠征登山を全くの無事故で成功を続けてこられた先生の輝かしき山歴に危うく傷をつけるところだった。逆に言えば先生の無事故伝統に守られたのかも。

以上は【AACK(京都大学学士山岳会) Newsletter No.97 平井一正さん追悼】への当会越田和男氏の投稿より転載させて頂きました。

これより先は過ぎ去った事を出来るだけ早く忘れる様に努めている私にとっては、時系列的表現が出来かねますのでご容赦ください。

先生との初めての出会いは1997年初冬、黒姫山山麓学者村にある平井センキチOB(平井吉夫氏の愛称)の別荘に集合のスキー合宿の折でした。遅れて来られる平井先生を黒姫駅に出迎えました。思っていたよりも小柄で、ポパイシューズのような爪先部分が大きく膨らんだ山靴を履いておら

れ、正直なところ此の方がかのヘルマンブールを飲み込んだ「チョゴリザの初登攀者」とは到底思えませんでした。

話しぶりは、闊達で明るく相手を惹きつける田舎のエエ氏のボン「ポコさん」そのものでした。

奥様のご逝去とカンリガルボへの道

2006年の秋クーラーカンリ登頂 20 周年の祝賀会を神戸で開催、CMA(中国登山協会)幹部らを招待、カンリガルボへの登山許可を得ようとした。

この祝賀会の 3 日前、メインホストである先生の奥様亡くなられ、葬儀場で先生の祝賀会出欠を確認されたところ、先生は即座に出席と言われ、CMA の招待者に余計な気を使わせない様に ACKU 全員(神戸大学山岳部・山岳会)に緘口令を布いてくれと言われた由。中国人は審議礼節に厚い文化、この配慮が後ほど大きく評価されるであろうことは先生の良く知るところでしょう。2009 年 ACKU と中国地質大学はカンリガルボの中央峯のロブチン峰(6805m)へ合同登山隊を派遣、初登頂を果たしました。同隊の登攀隊長としてKACの山本恵昭君の奮闘を先生は高く評価されておられました。

伊那雨宮山荘での集会

奥様の四十九日が過ぎ暫くしてからの事、先生の事を敬愛されていた雨さんより、先生が落ち込んでおられるので 伊那の山荘で先生を中心にした懇親会を開きたいが、いかがとの申し出がありました。

メンバー:平井先生・雨さん・平井センキチ・越しん・オオゼキさん・ユ一さん・日本山岳会より大阪外大山岳部 OB の田村さん(ロシヤ語堪能でモス

コー滞在歴長く、中央アジア他ソ連邦の登山事情に詳しい方)

一泊二日を基準でスタート、毎回最初の晩は[人生は食だと腕をふるうオオゼキさん]の手料理に談論風発、楽しい夜を過ごしました。翌日天気の良い時は伊那谷を中心とした周辺の展望台に。車を利用した楽ちんハイキング。女性の影のないハイキングは、先生の好みに合わなかったかも？

私の気になっていた事 2 点

一点目:雨さん車に先生を乗せ中央道の恵那山トンネルを北に抜けてしばらくすると右手に南アルプスの山並みが見え出すと先生はすぐに、今日は塩見岳見えますか？おっしゃいました。

二点目:オオゼキさんが台所に立つと直ぐに横にベックリ、料理の段取りをしきりに質問されておられました。(特にオデンの場合)

この二点目は、先生の令嬢廣瀬由仁子さんが追悼文『父へ贈る感謝状』の中で、奥様を亡くされた後、認知症になられぬ様にと配慮して先生を料理当番に任命された由、また偶然かもしれませんが先生の十八番料理は「オデン」だったとのことです。

一点目はご葬儀会場に最後のアルプス山行二件が飾られていました。

2011年喜寿の記念にと国内で登り残した3千m 峰塩見岳を、井上達夫さんのサポートを受け登られたと。

二点目は翌年北アルプスの最深部、赤牛・水晶岳の縦走で緒方俊治・井上達夫・山田健氏のサポートを受けて成功されたとのこと。

この先生の呆れるばかりの山への情熱というか執着に言葉がありません。

お聞きするにいつ死んでもおかしくないほど病歴は多彩だったようですが「辛い・しんどい・痛い」等の泣きごとを聞いた事が有りません。余程辛抱強い・か周りに対する気配りだったのでしょうか。

雨宮山荘集会のメンバーもオオゼキさん・平井センキチさん・雨さんと次々に亡くなられ「雨宮山荘の集会」も自然消滅となりました。

最後になりましたが、平井先生が甲南に残してくれた海外登山(トレッキングレベル)指向も、部員が集められず廃部では。しかし私には、先生のしめされた無事故伝説が幸運であったの一言で片付けられたくありません。

先生の素晴らしいリーダーシップと、育てられた良きメンバーシップを身近で拝見、大変勉強になりました。ありがとうございます。

ご冥福をお祈りいたします。

ホームページに寄せられたコメント

Re: 平井一正先生の訃報

越田和男

2月17日

訃報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。遠隔地につき、本日の通夜、明日の告別式にも欠礼し申し訳ございません。平井一正先生は神戸大学退官後、甲南大学に理学部教授として1995-2000年在籍、山岳部の顧問を勤められました。古くはチョゴリザの初登頂(1958年京大隊)に始まり、サルトロカンリ遠征への参加(1962年京大隊)、隊長として率いたシェルピカンリ(1976年神戸大隊)、更には総隊長を務めたクーラカンリ(1986年神戸大隊)など、そのどれもが無事故で初登頂を極めたという類稀なる経歴を持つ我が国第一級のヒマラヤニストで、甲南山岳部にとっては救世主。当時大学山岳部の顧問を引き受けてくれる教員がなく、部の存続問題にまでなっていた丁度その時、甲南に来られたのが平井先生で、山岳部顧問への就任を当時の理事長小川守正先輩の依頼に快く応諾されたのでした。御著『初登頂』(ナカニシヤ出版)の出版直後のこと、書店でこれを見つけた小生は、その奥付けの著者略歴に現甲南大学教授とあるのを見てびっくり、早速神戸の牧野宏君に電話を入れたところ、既に山岳部顧問になっていただいているとのことでした。以来、甲南大学退職後も親しくお付き合い頂きました。伊那松川の雨宮山荘にも度々お出掛け下さり、深夜に及ぶ我々の馬鹿話や、伊那谷周辺の山歩きに晩年までお付き合い頂きました。酒宴での示唆に富んだご助言や、温顔が忘れられません。当時の常連、雨さん、センキチ、大関も今は亡く、寂しさ一入です。心からご冥福をお祈り申し上げます。なお、ご葬儀に参列された方から、その概要など本欄に投稿願えませんでしょうか。

平井一正先生

廣瀬健三

2月18日

日本山岳会の月一回の山歩きで、よくご一緒させて頂きました。スキーの話になったとき、先生も小生同様、ゲレンデで滑るのはいまいちやな、そや、乗鞍へ行こう、春の終わり、三月はどうかな、いや寒すぎる、五月の連休前にしようと、決まりかけていましたが、先生がご多忙のため無理でした。桑原武夫著の：『チョゴリザ登頂』の一文で””平井の強さは抜群で、未だにへばりのかけらも見えていない。”とあります。やはりアタック隊に選ばれるだけの事があったようです。物凄い気力の持ち主だったようで、よく山登りは意地のぼりやとも言われていました。ご冥福を祈ります。合掌

平井先生のお通夜

山本恵昭

2月18日

平井先生とは、山にご一緒したこともありませんし、山について直接深く語り合ったこともありません。しかし、雨宮さんを通して私のことを聞かれていたようで、いろいろ良くしていただきました。特に2009年のカンリガルボ登山隊参加に強く後押ししていただき、帰国後は「皆が無事に帰れたのは、君のおかげや」と声を掛けていただいたのが印象に残っています。葬儀は仕事を休めず参列できないので、お通夜に参列しました。甲南山岳会からは、武田さんと大森さん、私の3名。神戸大山岳会の井上さん、居谷さん、山田さん、金井健三さん、山形先生、他の方々。お顔を知らないのですが、おそらく京大山岳会の方々など、沢山の方が参列されていました。祭壇には、穏やかな笑顔の平井先生の遺影が飾られていました。読経、焼香の後、喪主である廣瀬由仁子様が、コロナ禍で父に面会できず最後まで直接感謝を伝えることが出来なかったと想いを述べられ、放浪の歌(京大山岳部の歌?)で送って欲しいとリクエスト。皆さんで、放浪の歌を斉唱。棺の中の平井先生のお顔を拝みながら、別れを惜しんでおられました。ご冥福をお祈りします。



國分さんの思い出

石原浩二（昭44理）

國分さんは1年先輩なので、山岳生活はいつも一緒でした。ビルの谷間にぽつんと民家があるイメージのお宅に何度も泊めさせて頂きました。写真が得意で、山から帰ったら、写真焼付を教してもらいながら、次の山行、失敗談、他色んなことをだべりました。最速で必要数の写真を部室に持っていき、各人に渡していました。

思い出深い山行は國分さんがリーダーの冬山合宿、南アルプス北沢峠にBCを設営し、アサヨ峰、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳をアタックしました。好天に恵まれ、当初予定の半分くらいで、行程を終了して下山しましたが、食料も半分くらい残っているので、中央アルプスを越えて、木曽側に下りる話が出て、浪川さん、國分さん、糸園、私で行くことにしました。帰阪の方々と別れ、中央アルプスに入山、少しガスっている中、ラッセルしながら尾根まで上り、宝剣下、乗越浄土の山小屋横にテントを張りました。夜、快晴で満天の星空、月明かりで周辺もよく見えていました。明日は快晴で景観抜群の中、下山のはずが、朝になると、猛吹雪。國分リーダーの今日の下山は中止判断で沈殿。1日テントで過ごし、その日の夕食後、風は止み快晴。昨晚同様の月明かりで、明日を期待して就寝しました。翌朝、またまた低温猛吹雪。明日も期待できないので、下山することになり、撤収準備を始めました。テントは石原が担げとのことで、内張りがバリバリに凍ってきっちりたためない。ゴワゴワ巻きずし状テントを横向きにはキスリングに入らないので縦に入れ、グラグラ非常に不安定な状態で、猛吹雪の中出発。まずは木曽駒まで登るのです

が、立って歩けないくらい猛烈な風で、初めて指先、鼻の周りが軽い凍傷になりました。今でも凍傷の痕は残っています。木曽駒から上松に向かって1時間位下山したところで、テントも解凍してきたので、たたみ直すべく、広げたら内張りについていた、雪、氷が中からいっぱい出てきて大笑い。今度はきっちりたたためて、安定したザックで上松まで下りました。

翌年夏、劔岳合宿は宇奈月、樺平から水平道、阿曾原、仙人経由で入山、二股にBCでした。この時、山本先生から夏休み中に、学生を立山に連れて行きたいので、サポートして欲しいとの依頼がありました。室堂、一ノ越、五色泊、翌日、平の渡、黒四ダム、扇沢、大町のコースになりました。合宿半ばの頃の予定日、サポート隊は森をリーダーに、二股を出発、室堂で待ち合わせ、五色に向かいました。國分さんと、私は翌日皆さんと黒四ダムで待ち合わせる事にして、蔵ノ助平から黒四ダムに向かいました。夕方、扇沢最終バスが出た後、ダムの上は國分さんと2人だけです。夕暮れをボーと見ていると、三船、石原プロダクションと書いた車が入って来ました。映画「黒部の太陽」を制作していた頃です。作業服を着た三船敏郎が数人と歩いて来ました。映画では大きな存在感があるのに、意外と小さい人だなーと思いました。映画スタッフも帰り、國分さんと二人で、ダム上のベンチで寝ましたが、夜中一面カゲロウなのか、びっしり絨毯状になったのは驚きでした。翌日、トレッキング隊が昼頃、ダムに降りて来ました。トレッキング隊

は扇沢に向かい、帰神。我々は蔵ノ助平を経て、二股BCに帰りました。

國分さんが卒業後、冬山合宿は烏帽子から槍ヶ岳縦走でした。三俣蓮華で4日間、吹雪で動けず、5日目幾分天候が回復したので、強引に槍の肩まで行きました。翌日、槍沢を下りる頃から天候が崩れだし、横尾付近からは雪が激しく降ってきました。上高地で1泊後、松本で解散。北川と私は松本駅のベンチで寝て、雨さん、國分さんを待ちました。翌早朝合流し、爺ヶ岳東尾根に向かいました。鹿島部落までも雪、入山テント設営中も雪、夜も雪で何回もテントを除雪しました。翌日、爺ヶ岳に向かって登る時も雪、ジャンクションも吹雪でした、ジャンクションからホワイトアウト状の中、登っていると、下りになったので、雨さんにこれが爺の頂上だと言うて、引き返しました。その日のうちにテントも撤収して、鹿島のおばあ宅まで下山して帰神しましたが、道中も雪で、名神は閉鎖。1号線を帰ってきました。翌年冬山は中崎尾根から槍ヶ岳縦走でした。合宿後、北川、南野、私で爺ヶ岳東尾根に向かいました。昨年と違い快晴で、ジャンクション手前でテントを張り、翌日、鹿島槍ヶ岳を往復しました。前年は矢張り、爺の頂上まで行ったことが確認出来ました。翌日、雨さん達と中房温泉で待ち合わせ、燕岳、大天井岳に登った折、爺の頂上に登っていたことを報告しました。

それから数十年経ち、秋、國分さんに立山に行こうと誘いました。カンさん、國分夫妻、私で、関学山小屋で一泊して、翌朝、室堂から一ノ越、東一ノ越、黒部平までトレッキングです。登りは一ノ越まで、後は北アルプスの山々を見ながら、樹林帯に入ると、紅葉の中のトレッキングでした。久々の山あるきでしんどかったが、楽しかったそうです。カンさんは扇沢から爺ヶ岳まで歩くので、黒四で別

れました。その後、私達は木曽福島秋の集会に参加しました。國分夫人はこの時、靴も、ザックも妹さんに借りて来ていたのですが、トレッキングに俄然目覚め、帰ってから装備一式揃えたそうです。その後、ご夫妻と一緒にロックガーデン慰霊碑まで行きました。慰霊際はいつも國分さんと早めに芦屋川駅を出発して、現地で皆さんと合流していました。國分さんが来なかったら、私が最高齢になるから必ず慰霊祭に来るようと言っていたのに、来年から来ないのが残念です。カンさんが慰霊祭に来なくなった一番の理由は自分が最高齢になったからだそうです。来年は浪川さんを強引に誘うことにします。

國分さんが大事故で入院している時、赤田から國分さんが大変な事故にあって、天王寺警察病院に入院していると聞いて、飛んでお見舞いに行きました。幾分回復されていた時でしたが、会うなり思わずハグしてしまいました。ぶつかると思った瞬間から、全く覚えていない、体中金属だらけになったと言われていました。数日間、意識が無かったそうです。たまたま病院の隣が新設ビルの工事現場で、病室窓から毎日見ていると、朝礼があり、人が動きし、何も無かった所から、次第に物が出来ていくのは面白いなー、石原が建設会社に入った気持ちがよく分かったと話していました。あの事故で、人生観が変わり、今、自分が生かされているので、大切に生きたいといつも言っていました。

奥様から訃報の電話連絡を頂いた折、あの事故でも復活し、輸血で肝炎になっても奇跡的に復活してきたのに、今回は駄目でしたと言われて、お悔やみ申し上げますとしか言葉が出ませんでした。

今回、追悼文を書いていると、一緒に行った山での生活が昨日のように、蘇ります。明日にでも、

國分さんから今度この山に行きたいと、電話がかかってくるような気がします。雨さんの「石原どないしてー」の声が聞こえそうなのと同じです。

國分さん長い間、有難うございました。一緒に山で時間を過ごせた貴重な経験を思い出しながら、素晴らしい出会いに感謝しています。



ホームページに寄せられたコメント

國分廣昭さんを悼む

柏 敏明

9月1日

先日は関学山岳会の青木宏安さんが亡くなったとの知らせを受け、この度は、國分さんが亡くなられたと掲示板で知りました。コロナ禍の為、山岳会の会合も開かれず、皆さんはどうしておられるのかなど気懸りになっていた矢先の訃報でした。

親しい山の仲間の幽明を境にする知らせを受ける事はつらい事です。

國分さんは、確か昭和39年の入部だったと思います。入学が決まったら、即、部室を訪れて入部を希望され、翌日から練習に参加された頼もしい新人でした。39年3月の烏帽子～白馬縦走のブナタテ尾根からのサポート隊に、入学前の彼が参加していた覚えがあります。主たる合宿に参加され、41年度からはリーダーとして、不帰東面、剣岳東面、穂高屏風岩、冬季甲斐駒、積雪期双六周辺と意欲ある合宿を遂行されました。

卒業されても、折々に現役の合宿に参加され、登山活動が続けられていましたが、突然、対向車の事故に巻き込まれ、生死の境をさま迷われました。奇跡的に助かれましたが後遺症が残り、その後、長期に渡ってリハビリに苦労されたとお聞きました。その時、C型肝炎にも罹られ、インターフェロンのお蔭で助かりましたと笑顔で話されていたのが印象的でした。最近、事故の後遺症もなくなり、お元気な姿で総会や慰霊祭、駒王、時折開かれる飲み会にもよく出席をされていました。

彼はカメラが得意で、隊の前後を歩いて、素晴らしい写真を撮っていました。今でも、彼に撮って貰った滝谷の登攀、厳冬期北穂のキレットの写真が我が家の壁を飾っています。決して目立つことはせず、黙々と自分の職責を果たしていた國分さん。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。 合掌

青木さん、国分君ありがとう

kann69

9月1日

青木さん、国分君訃報に接し寂しき限り。当森本は先週まで寤病生活を送ってまいりましたが急に悪くなり出し、今後の生活をどうするか迷ったすえ 延命処置を断りケア病棟に登録を致しました。いつまで元気でおられるか分かりませんが 頑張ってみるつもりです。 森本

Re: 訃報・國分廣昭様

越田和男

9月2日

訃報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。小生とは7年後輩にあたり、現役時代の重複は無かったのですが、昭和40年代の後半にはよく山で一緒にさせてもらいました。懐かしい思い出の山行を二つばかり。

昭和45年5月の毛勝岳では、田邊ガチャ、伊丹(兄)、飯田、鶴木、国分らが同行。阿部木谷の幕営地から頂上を往復したのだが、その往路、毛勝谷の真ただ中で、尾根筋で発生した巨大な雪庇崩壊による雪崩に遭遇。ドカーンと大音響の数秒後、数メートル横をエライ勢いで通過、ニヤミスで間一髪セーフ。数10メートル下で谷一杯に広がり止まったのを見て足が震えた。2次雪崩を恐れて稜線迄掛け上がったのだが、若い国分君の逃げ足は速かった。ペースの遅い小生は独り取り残されてヒコーラ。前年秋のやはり毛勝での平井吉夫の事故に続いたこの経験でガチャさんから、「もうわしら歳やで、ヤバい山は止めなアカんな、こないだ柏(兄)に説教されてん」と言い渡された。

昭和49年5月の話は、穏やかなもの。例によって蒲原温泉(後に焼失)に集まったなかで、伊藤文三大先輩、美田、国分、赤田と小生のメンバーで、雨飾山に出かけた。根知から梶山新湯経由で出来れば頂上までと甘い読みで歩き出したものの、長い雪道のアプローチに踏み跡がなく、美田さんがスノーブリッジを踏み抜いたりして手間取り、梶山新湯で昼弁当。ちょっと雲行が怪しくなり、梶山新湯の温泉が入浴OKと聞くと、もうそれより上に行こうとは誰も言わない。ひと風呂浴びていい気分が帰途についた。

いずれも国分君の笑顔とともに思い出されるいい山旅でした。その後は大怪我や大病に見舞われながらも元気に回復され、ロックガーデンでの慰霊祭や秋の駒王で旧交を温める機会があった。駒王には奥方同伴で来てくれたこともあった。

心からご冥福をお祈りします。

訃報・国分廣昭様

南里章二

9月5日

国分さんの訃報に接して、遅ればせながら哀悼の意を表します。

現役時代、夏山合宿で南アルプス全山縦走をした時のリーダーで、部員を叱り飛ばすことなど一度もなく穏やかにハードな合宿を率いていただきました。

卒業後何十年ぶりかで総会でお目にかかったとき、先輩であるにもかかわらず「南里さん」とお声がけいただき驚いたことがありました。国分さん、もう一度お逢いしたかったです。

訃報 国分廣昭様

渋谷一正

9月13日

国分先輩の訃報に接してとにかくびっくりしています。

国分先輩はこの10年大変親しくいただいた先輩です。

前立腺がんでは同病相憐れむ関係でもありいろいろ教えていただきました。ありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

駒王では集合時間まで集まった順番に外でビールを飲むのですが「一年ぶりやあやあ」という感じで旧交を温めます。

ガチャさん、平井さん、雨宮さん、国分さん皆さんの笑顔が浮かびます。

故松下哲夫君について思い出す事

西村 清 (昭51 経)

松下君(以下敬称略)は甲南大学山岳部以前より知っていた。当時の感覚で言えば「存じ上げていた」という状態だ。お互い高校時代から学校は違えど山岳部に所属しており、いくらかの親交があった。私は府立箕面高等学校2年生、彼は府立桜塚高等学校3年生であった。つまり、私は彼の1学年後輩である。元来、桜塚高校山岳部は硬派で、鬼のような先輩、という意識があった。甲南大学に入学したのは高校卒業後の1年後(一浪)であり、松下が入学したのも同じ年であったので彼は二浪していた訳である。従って、入学後、即山岳部入部状態であり、入部後の最初の5月合宿不帰東面には新人4名(松下、西村、芦田、福田)の一員として参加したが、同期である松下は実質1年先輩の「松下さん」であった訳で、早朝からのエッセン準備等をともにしながら「松下さん」と呼び続けていた。合宿終了後、4回生の森(鷹巣)大先輩に呼び出され、同期生を「さん」付けで呼ぶのはおかしいのではないか、と説教されるも、言われて俄かに「松下」、一步譲って「松下くん」と簡単に呼び替えれるものではない。結構、声を掛けるにも苦労していたが、その内、彼の大吃漢振りに周囲から「オニくん」と呼ばれるようになり、これに便乗して「オニドン」と呼びかける事ができるようになった。その頃、

遅れて入部してきた渋谷も加わり、多分、夏合宿頃には対等に話す事ができる様にはなっていた、と思う。彼の大吃漢振りはすさまじく、1年の間はエッセン係として後片付けまで担当するのだが、松下は彼の持ち前の几帳面さもあって、我々がシュラフに潜り込んで寝る態勢になってもナベにこびりついたご飯粒をスプーンでこそぎ落として口に運んでいた。あの「カリカリ・シャカシャカ」という音は彼とテントを共にした時の子守歌の様なものであった。以後、今まで変わらず親交を続ける事が出来たのも、酒の飲めない自分に代って同期の渋谷に負うところ大なるものがあり感謝と共に松下の冥福を祈る。

以上



2017年4月22日

おに君のこと

大柳香代子（昭51法）

学年同期の5人の中では、一番ニッカボッカが似合い、
キスリング を背負えばカッコ良くズンズン歩を進め、
ザイルをのぼすとさらり！
岩を攀じり、ガストン・レビューファーにそっくりなのに、
コップェルの中の米粒をひとつも残さずに、
にこにこ大切にたいらげていたお茶目なおに君。
共に過ごした時間は私にとってかけがえの無い宝物です。
おに君、
大好きな剱岳へ登攀続行して下さい！

ぼちより



オニ君

鷹巣久美子（昭51文）

関西に行く機会が無くなっていましたが、そのうちに山岳部の皆様にお会いできる機会もあるとノンビリ構えていました。

せっかちなオニ君は『そのうちに』を待っていてはくれませんでしたね。

今とても後悔しています。

何時もワチャワチャしていた部室のなかで、無口な中から発する一言は、鋭く真実を突いていました。

でも普段は穏やかで優しいオニ君で、どれだけ大きなオニギリが作れるか、またそれを食べ切れるかのお遊びにも付き合ってくれて、3合の巨大オニギリを平らげてみせてくれた事もありました。

身軽になった今、好きな山々を存分に楽しんで下さいね。

その時には赤いジャージをお願いします。

ありがとうございました。

（Q）



1974年7月 夏山の入山 松下さんは後列右から4人目

松下哲夫君を悼む

渋谷 一 正 (昭51 営)

私が1回生の10月、山岳部に入部した時、ゲテ君(西村清)より松下哲夫君という部員が退部寸前であること、また、彼は有能で桜塚高校山岳部に在籍し、経験豊富であることを伺った。そこで彼に何とか山岳部と一緒に山登りができないかと慰留工作を行い、一緒に大好きなお酒を飲んで意気投合することになった。

それから、山岳部経験者の哲ちゃんと同じようにゲテ(箕面高校山岳部)の経験者2名と私の3名が男子部員となった。ただ、私はスポーツは何の経験もなく、秋、友人と上高地を訪れて「穂高に登ってみたい」と思い、山岳部の門をたたいたのであった。女子部員はボチ(吉松さん)とQ(鷹巣さん)の2名。なかなか個性的な5名の学年であった。

2年となり、山の経験者として哲ちゃんは装備担当、ゲテ君はエッセン担当と重要なポジションを担当した。渋谷は気象係だった。

私はこの山岳部時代からの50年間の山登りを哲ちゃんと一緒に登ってきた。

前穂高北尾根の屏風岩東壁から四峰正面壁北条新村ルートのハイマツテラスでビヴァーグして、さあ、エッセンとリュックを開けると、私の水筒の栓が開いて水がリュックの中にこぼれていた。中の衣類等を絞ってホーローカップに水をためて飲んだ時、怒っているだろうなと思った。真っ黒な水を黙って飲んでいて顔は今も覚えている。哲っちゃんは「無いよりましやな」と言った。その後、前穂東壁右岩稜を快適に登った。

その後、インドキシトワルヒマラヤへ遠征に同行した。ジャムー・カシミール州の北東部ザンス

カル、ラダックと呼ばれる地域(中国国境の近く)の中心都市レーの町で哲ちゃんがチベット人の帽子と服を着ている姿はまさにチベット人そのものの、まぎれて見分けがつかなかった。

桜塚高校山岳部OBの中田さんは「松下は高校のころから桜塚のガストン・レヴィュファと呼ばれていたんや」と言っておられた。確かに哲っちゃんのちょっとくせ毛、大きめの鼻、少し赤ら顔など、アルプスの名ガイドで1950年フランスのアンナブルナ遠征隊で活躍したレヴィュファそっくりだ。

ピッケルはカドタススペシャル、アイゼンはタニ、山靴はアイガーなど登山道具へのこだわりもあった。岩登りはスマートというより岩壁に何かぶつぷつ言いながら登る独特の登り方であった。

卒業後は甲南山岳会の年中行事で会い、その時はお酒を飲み、歌い楽しんだ。私の自宅でも新年会とか宴会を行う時には必ず一緒にワイワイ楽しんだ。

哲ちゃんは最近、中田さんや井上さんとよく山行っていたので「私も退職後は山に連れて行ってほしい」とお願いすると「いつでもええで！一緒に行こう」と答えてくれた。

「秋の駒王集会」はいつも井上知三先輩、山本真博先輩、松下、渋谷の4人で一緒に参加した。「秋の駒王集会」に山本先輩を誘うと、「松下と一緒にでないで行かん。しっかり、面倒見てくれるのは松下だけや。井上、渋谷は信用ならん」といつてはったけど、確かに哲ちゃんは細かいこともしっかりケアしていた。

「哲っちゃん、また、一緒にやまに登ろうな！

お酒を飲んで大いに歌おうぜ！」

オニ君 急ぎすぎ！！

高橋 けい子 (昭50文)

時は昭和の時代、50年前(エ?!)の生田神社の秋祭り。

当時のリーダー会は平井氏と松本氏。私共は2年、オニ君達は1年であります。

その年の祭りの当番幹事を務められていた OB 村上氏の一声で御神輿担ぎにみな駆け出されました。“いいバイトにもなる!”と女子マネ2人の張りきる事!!

オニ君始め男達の法被姿も意外と似合い、“力と掛け声ならお任せ!”とばかり元気! 元気!!

大蓄の前で何度も稽古し、いざ本番!

お神酒やお握りがたっぷり振る舞われる御旅所を通る度、ますます気合いが入る事! 威勢のいい掛け声が通りに響き渡っておりました。

その時のオニ君の真剣かつ嬉しそうな顔! 忘れられませんなあ……

私達女子隊は皆の荷物を両手いっぱい抱え、今でいう“追っかけ”してました。

そして、たっぷりバイト代も頂き、念願の赤いジャージが買えました(しかも上等!)。

緊張する冬山前のほっとするひと時でしたね、オニ君!!

貴方は常に真剣でそしてお元気だった…。ご冥福をお祈りしております。

GON



松下君 ありがとう

村田 信一 (昭50経)

追悼文になるのかご遺族に失礼かと思いながら思い出を羅列してみます。

私と同期の朝倉君はすでに他界していますが一年後輩の松下君とは高校生時代の同期だったようです。よく2人でしんみり話していました。幼い頃に両親を亡くされた苦労人です。私が卒業して父を亡くした時、話して彼の深い優しさを知りました。

大食漢で北海道で春山を終えて札幌ラーメン大盛りを三杯汁まで完食したのは驚きました。よほど旨かったのでしょうね。

翌年春山で十勝〜大雪山スキー縦走した時は低温とブリザードの厳しい山行で彼はスキー金具で締め付けた足の指を数本失いました。痛がっていましたが我慢強く完走しました。なんと

かしてあげないといけなかったのですが申し訳なく反省しています。

有馬温泉の簡保の宿に家内と宿泊して六甲山に行く魚屋路でばったり出会ったことがあります。奥様？と一緒にでしたが紹介は無くお互いになにしてんの？と間抜けな会話でした。

天然パーマに少し長い顎と甲南 AC の赤シャツが登山家ガストン・レビファを思わせる風貌でシャモニーモンブランの展望台でレビファの写真を見た時に「おう松下！」と思わず呼んでしまいました。

もの静かな口調で今頃は朝倉君と仲良く地上を見下ろしているでしょう。

松下君ありがとうございました。安らかに眠りください。



ホームページに寄せられたコメント

Re: 訃報

ゲテ

9月18日

16日豊中市民病院から退院した旨、渋谷より連絡を受け、17日午前10時には、井上先輩、中田さん、渋谷と4人で松下宅を訪問しました。部屋に入った時に「おお！」と手を挙げたように見えたけど、結局会話はできませんでした。

松下さん お安らかに

大森雅宏

9月18日

松下さんは納富や私が新入生の頃の主将でした。南里さんと國分さんの学年構成に似ています。いい先輩であったのもおんなじです。松下さん3年、私1年の夏の東大谷のロングラン、1年半くらいたって松下さん4年、私2年の春の前穂四峰の空中大遊泳、ふたりとも卒業してからのヒマラヤのビバーク、いろいろと思い出すことがあります。

松下さん、急ぎすぎです。こんなのはゆっくりゆっくり人の後ろからゆくものでしょう。

早すぎる訃報が残念です。ご冥福をお祈りします。

テッチャンの訃報に接して

渋谷一正

9月19日

訃報に接し、テッチャンのご冥福をお祈りします。

一昨日(金曜日)テッチャンが退院したとの連絡があり井上先輩、中田さん(桜塚高校山岳部、酪農学園大学山岳部)とゲテと4人で自宅に伺いました。「テッチャン」と呼ぶと反応があり、体を治して信州に蕎麦食べに行こうとかいろいろ話しかけました。その翌日、奥様から9時54分旅立ちましたとの連絡がありました。テッチャンは私の山岳部入部以来すべての山行を一緒に行いました。高校も山岳部に所属して、シロウトで肉体的にも軟弱な私とは大違い、周りの皆さんからの信頼され人の嫌がることを率先して行う人でした。お酒を飲み、山の歌を歌い楽しい夜をたくさん過ごしました。私の山登りはテッチャンの優しさの上に成り立っていたと思っています。

仕事を辞めたら山に連れて行ってくれとお願いしたとき、「わかった、行こう！」と言っていたやないか！テッチャン！

松下さんの訃報に接し

要 裕晶

9月19日

松下さんのご冥福をお祈りします。昨夜、泉さんからご連絡をいただき突然の訃報に愕然とし俄かには信じられませんでした。松下さんは私が入部した時、雲の上的存在でしたが桜塚の不肖の後輩にいつもニコニコ気さくに話しかけてくださいました。KKHEや酒席でのお話、天候大荒れの結婚式などたくさんの思い出があります。

最後にお会いしたのは蕨内君の三十三回忌の時だったと思いますが、もっとお話したかったです。

松下君の訃報に接して

南里章二

9月19日

先程渋谷君からの連絡で驚きました。心よりお悔やみ申し上げます。

松下君は40数年前の第一次キシュトワールヒマラヤ登山隊の主力メンバーで松本君とペアを組んで、荷上げ、ルート工作など第一線で活躍してもらいました。与えられた役割を黙々とこなす、信頼の高い隊員でした。最近では慰霊祭の銘板取り付けなどにもご尽力いただき、これからの活躍も期待されていたところでした。部歌斉唱の時のEin,Zwei,Dreiの彼の声が耳に残っています。酒も強かったのでまた一度一緒に飲むことを楽しみにしていました。どうか安らかに眠りください。



甲南大学山岳部第二次キシュトワールヒマラヤ登山隊 1979 (KKHE II 1979)

松下さんの登降線と隊の行動概要

故・大島輝夫氏のこと

越田和男（昭36理）

甲南山岳会の会員ではないが、今年3月に亡くなられた大島輝夫氏（元日本山岳会評議員 享年94）のことにつき、甲南山岳部・山岳会とのご縁を紹介しておきたい。私とは日本山岳会での出会いがあり、甲南出身ということで特にご厚誼に預かった経緯がある。

まずは父上・大島堅造氏（1887～1971）のことだが、堅造氏は甲南大学経済学部発足の教授。住友銀行出身で住友本社でも役員を務めた国際金融、外国為替の権威であられた。山好きとしても知られ、住友山岳会の会長で、晩年に上梓された著書『山の古典と共に』（茗溪堂 1968年）がある。山書愛好家には人気のある一冊で、後に輝夫氏から甲南山岳会に1冊ご寄贈いただいたので、どなたかの手元にあるはず。どうか大事になさって下さい。

本著は著者の大正時代からの北アルプス登山を初めとする内外の登山紀行に加え、書名にもあるように、数々の「山の古典」を通じた世界の高峰の登攀記録に関する研究、論考などの旧稿新稿をまとめて晩年に出版されたもの。日本の山の昔話も良し、更に海外高峰の登山史の周辺もまた良し。このような趣味を持たれた碩学の登山家が、筆者の在学時に甲南に在職されていた事を迂闊にも存じ上げなかった。後に本書の奥付の著者略歴で知った時は後の祭りだった。

この度亡くなられた四男の輝夫氏は、当時としては少し変わった学歴だと思われるが、神戸一中（現神戸高校）から（旧制）東京高校、そして大阪大学理学部に進まれ、それぞれの山岳部で山に親しまれた。阪大理学部で化学を専攻され、そこでの甲南山岳部出身者との出会いがあった。関集三氏（昭和10年旧制理科卒・阪大名誉教授）や

塩野良之助氏（昭和17年旧制理科卒・米国ピッツバーグ大学教授）のお二方（ともに故人）とは同じ研究室で親しくされていたと聞く。

塩野さんとはほぼ同年配で、晩年のある年に大島さんがピッツバーグに塩野さんを訪ね、古い山の話などで楽しいひと時を過ごされたことがあった。帰国後お電話を頂き、塩野さんに甲南の『山嶽寮』が届いていないようなので是非送ってあげて下さいとのことだったので、早速事務局の井上知三君に最近号の送付でお手を煩わせたことが思い出される。また、神戸高校山岳部のOB会では神戸一中出身の大島さんと神戸高校出身で甲南山岳会員の柏敏明君（昭和41年経卒）との出逢いなんかもあって、話が弾んだとのこと。

大島家と甲南のもう一つのつながりも最後に書いておきたい。輝夫氏の長兄の大島寛一氏はやはり山好きで、昭和初期、神戸一中在学中、積雪期の槍・穂高での旧制甲南高校山岳部の合宿に参加、槍ヶ岳などに登頂している。甲南の初期の部報によれば、一行は伊藤愿、西村格也、香月慶太、檀淳、湯川孝夫で、まさに甲南山岳部草創期の主力メンバーと行を共にされたのだった。ずっと後のことだが、終戦後の昭和26年、ヨーロッパに長期出張した伊藤愿さんが、ローマで寛一氏と再会を果たされたことが遺稿集（松方恭子編『妻に送った九十九枚の絵葉書—伊藤愿の滞欧日録』（清水弘文堂 2008年））に読み取れる。

甲南を介した山と人とのつながりは多々聞き及んでいるが、温かみを感じるひとつの例として大島父子のことを輝夫氏逝去の機会に紹介させて頂いた次第です。

（2021年8月 横浜にて）

— 会員短信 —

新制高校

米山悦朗 (新高 29)

コロナで余り動きなしです。松川の雨宮山荘には月に一回位の割合で行っています。

北方龍一 (新高 30)

ご無沙汰しております。今年はコロナで大変ですが、お元気ですか。いつも甲南山岳会のお世話有難う御座います。私は85才になり、山、スキーはおろかゴルフも縁が切れて15～6年になります。私はボランティアで、計画から10年、申請開始から5年の、神戸市初、第一種住居専用低層地域では全国初の六甲川灘区水車新田の小規模水力発電がやっと3月末に完成しましたが、なに分とも初めての経験で、なかなか本調子が出ず、連日現地にて暗中模索中です。VP300で0.1 m³/sの水流は想像以上で、3 kg/m³の水圧と相まって水圧管(延べ400m)最終部では6トン以上の斜め重量がかかります。騒音、漏水などのトラブルも多く、老骨に鞭打って連日山(森)歩きです。総額¥65,000,000以上のプロジェクトで、発生電力は6月より20年間コープこうべ買い取ってくれます。旭化成から無償譲渡を受けた山林(5,000坪)はコープこうべ基金で、里山整備に着手しており小・中・高の教材などに提供します。とにかくコロナにはくれぐれも注意しましょう。

川村静治 (新高 40)

ステイホームでおとなしくしています。遅ればせながらスマホに切り替えました。パソコンとも違う扱いにとまどいながらいろいろ試しています。

福田裕久 (新高 45)

小生も今年2021年 齢(よわい)70才と古稀をむかえる事になりました。コロナ禍の大変な年ですが、諸兄も身体を大切にお過ごしください。

松下弘幸 (新高 54)

相変わらず米・日を行き来しております。

大 学

砂川彰雄 (大 32 経)

昨年暮れに左足を今年3月に右足をネンザし2本杖でヨチヨチ歩いています。現役時代の事もだんだん忘れさるようです。

麻島重彦 (大 33 経)

いつも連絡ありがとうございます。一応元気にして居りますが、外へ出歩く事が億劫になって参りました。

鈴木頼正 (大 33 経)

時折、茨木の本部事務に顔を出し月一回の会議(役員会)に出席しています。今は月1～2回60才以上の人とゴルフを楽しんでいます。ミドルホールでも4オンがやっとです。剣岳・前穂高が懐かしいです。ネパール、ヒマラヤの写真を見て思い出しています。

越田和男 (大 36 理)

コロナ禍で歳をわきまえての巣ごもりはちっとも苦にならないが、内外への旅に出れずに1年・2年と年単位で残り少ない年月が過ぎ去って行くようで如何にも残念。行きそびれてしまっているのはコーカサス、再訪したいのはブータンなど。車の運転を続けるのが悩ましいところ。腰痛のリハビリを兼ねて一日小一時間のウォーキングを続行中。

廣瀬健三 (大 36 経)

コロナ感染の為JACの月一度の山行も中止、他にスッカリ定着した週一度のテニスや近くの公民館でのコーラスも無く近所の散歩ぐらいの日々です。

田中 孜 (大 36 経)

ここ数年、体調が思わしくなく病院通いです。

二谷和成 (大 38 経)

なんとか元気になっています。1年間は老人仲間のウォーキングもなくなりました。毎日、家の近くを30分～1時間歩くように心掛けてます。

飯田 進 (大 38 経)

まあ、元気にはしております。先日、高齢者認知機能検査を受けてきました。合格。そんなにボケていないようです。

福田信三 (大 39 理)

新型コロナ発生禍中、幹事役ご苦労様です。確かに行動範囲は狭くなりますが、その分近場に目をやり新発見もあります。80才の半歩手前でアップルウォッチに挑戦しています。アイフォンの子機とはいえ、100%の機能を理解するのは大変。腐りかけた脳にムチ打ってやっています。レジの清算で時計をかざしてやるのは”カッコイイ”ですね。

武田雄三 (大 39 経)

返事遅くなり申し訳ありません。コロナ騒ぎで外出もままならず体はすっかりなまってしまいました。コロナワクチンの接種が待ちどしいです。

村上与利一 (大 39 経)

コロナ不況で住所変更。5月23日より下記へ
〒662-0047

兵庫県西宮市寿町 5-6 サ‘スタイルズ’夙川 105
元町店舗は空地です。

新事務所: 〒651-0087 神戸市中央区御幸通8丁
目 1-6 神戸国際会館内 4F

安井 正 (大 40 経)

「ステイホーム」も苦にならずお陰様で今のところ元気に暮らしています。

柏 敏明 (大 41 経)

皆様は如何お過ごしですか。コロナで娘の在住している藤沢やシンガポールに行けません。時々長崎に係留している小西氏のヨットで五島列島などのクルージングを楽しみ金剛山地麓の温泉で憂さを晴らしています。先日、新神戸近くの旧竹中邸の後に出来た竹中大工道具館を見学。簡単に考えていた材木や大工道具の奥深さそして棟梁のすごさを工夫された展示により学ぶことが出来ました。昔の人は偉かったとつくづく感じました。是非、お勧めです。

井上 徹 (大 41 営)

伊豆高原在住のゴルフ愛好者で構成する会員数約50人のお世話をしながら週平均2回のラウンドを楽しんでいます。このサークルは今年98歳のスーパーマンを筆頭に80歳以上の方が15人(内女性1名)平均年齢が 76.5 歳という高齢者集団ですが、皆様お元気です。エイジシュートの達成を目標に毎日庭に放置したゴルフレンジで100球を目標に打ち込んでいます。

頼富信輔 (大 43 法)

毎回のご連絡ありがとうございます。今は一日も早くコロナ禍が終息することを願うばかりです。小生いつの間にか後期高齢者の仲間入りをしましたが、現在も瀬戸内海の女木島【鬼ヶ島】で観光ガイド・里山ガイドをして元気に過ごしております。皆様とお目にかかる日を楽しみにしております。
合掌

國分廣昭 (大 43 経)

小生コロナの為ズート引きこもりのまま現在に至る。

(令和3年8月28日 逝去されました 編集)

石原浩二 (大 44 理)

コロナが収まって、皆様と早く会いたいものです。

南里章二 (大 45 理)

4月の総会で報告しようと思っていたのですが、雨宮 圭 様ご依頼の雨宮さんの山岳書、二百数十冊を甲南高校の社会科研究室前に、ガラス戸付・鍵付の本箱に去年の5月に搬入しました。「雨宮文庫」として図書館管理、貸し出しは社会科教員の方で受け付けています。遅くなりましたがご報告まで。

矢吹 操 (大 45 理)

元気です。いまだ現役。勤務できることはありがたいですが、少々疲れてきました。休みの日は、外出して花でもゆっくり見たいものですが、コロナの状態を考えると外出は難しい。困ったものです。

井上知三 (大 48 文)

古稀となりました。今年は雪見会もなくスキーにも行けず寂しい始まりとなりました。最近、焚火キャンプに誘われて楽しんでいます。炎と酒は相性がよく素晴らしい癒しのひと時が過ごせます。

平井幹男 (大 50 文)

山に行けない1年でした。1日2時間、晴れた日のウォーキングと初孫の世話が毎日の出来事。70才のじいさんになってしまいました。早くコロナが落ちついて、皆んなでたき火を囲んで酒が飲みたいです。

高橋けいこ (大 50 文)

いつもお世話になっております。私のワクチンは6月末。女子隊のみんなが接種が終わり、世の中が落ち着いたら約束通り「ごはん会」しましょうね!!

中澤章浩 (大 50 文)

三月末に自宅でつまづき右足の甲近くを骨折しました。何とも情けない有様。只今リハビリ中で普通にあることの有難味を感じているところです。山

も暫くは行けそうにもありません。皆様どうぞお気を付け下さい。

大柳香代子 (大 51 法)

山岳会の皆様にはお世話になりありがとうございます。2020年は淋しく、辛い時もありましたが、元気に過ごせることに感謝です。秋には立山の天狗原～弥陀ヶ原と初めて歩くことができ、その美しさに癒されました。また白馬の梅池高原と八方池も訪ねることができ山があることに感謝しています。冬の上高地に来年は行きたいです。近場の里山歩きを楽しみながら脚力を維持できればと己を鼓舞しております。

松本好博 (大 52 法)

連絡ありがとうございます。元気で頑張っています。甲南 AC100周年計画何かありますか？立案・実行 考えましょう。

松下哲夫 (大 52 理)

去年の9月に脾臓がんになってから、12月の手術での除去が出来ず、今年から抗がん剤によるがん治療になって4か月程になります。がんは抗がん剤の結果が良い方向で進んで少し小さくなっています。但し抗がん剤の副作用が治療に伴って出て来ますが、胃の不調が1番体調に影響している様で、体重減からの回復がなかなか難しいのが現状です。

(令和3年9月18日 逝去されました 編集)

大森雅宏 (大 53 文)

平成のおしまいから令和の初めは、昨年正月に亡くなった母の看取り。その頃からコロナがでて、ずっと山はご無沙汰です。令和2年夏に定年退職、家ゴロ生活をふた月ほどして秋から福祉関係の団体で非常勤の現場勤めをしています。慣れない職場も考え方はいい刺激。まあまあ元気です。またロックガーデンをご一緒出来るのを楽しみに。

要 裕晶 (大 55 営)

延期のご案内ありがとうございました。誠に残念ですがワクチン接種が終わらないと大人数での集会は難しそうですね。さて、私こと一昨年末定年退職してから医薬品とは全く違う業界ですが、フルタイムで元気に働いております。またお会いする日を楽しみにして、皆様のご健勝を祈念いたしております。

川野幸彦 (大 56 理)

皆様お元気でお過ごしですか。私は4月に名古屋から大阪に戻りました。定年延長であと2年間、今の会社で頑張ります。山には大阪近郊の低山登りを楽しんでいます。北アルプスには全く出掛けていません。コロナが終息したら、いろんな所に出かけたいと思っています。剣に穂高・南アルプス楽しみです。また、何か行事がありましたら、お声がけください。

青木雅夫 (大 57 経)

いつもご案内ありがとうございます。

八木 健 (大 58 経)

御無沙汰して申し訳ありません。一年を通して最も穏やかな季節、昨年に続き今年も外出を控えなければいけない状況で残念です。収まればレリーフ辺り迄行こうと思っております。皆様のご健康

を祈念申し上げます。

松山弘和 (大 61 理)

コロナと持病で、1月から在宅勤務を行っております。秋の集会には参加したいと思っております。

松成 健 (大 H8 文)

娘の大学進学、私の転勤に伴い福島市に引っ越しております。家族3人で暮らしております。最近、福島県内の山々を登っており、夏は尾瀬・飯豊山辺りに行きたいと考えております。コロナの影響で関西・関東の皆様は大変かと存じますが、どうかお身体にはお気を付け下さいますようお願い申し上げます。

森本寛之 (大 H19 理工)

コロナで海外旅行が出来ない状態です。新年は家族でハチ北でスキーをしました。2年生と5才の子供たちもできるようになり、家族共通の楽しみとなりました。

特別会員

鈴木敬吾 (特別会員)

今の所、元気です。人混みに行くのは止めています。



— お知らせ —

2021年度 山岳会行事について

新型コロナウイルス問題のため

山岳会総会 / 慰霊祭 / 秋の集会

は昨年度に引き続き 開催延期・中止になりました

平井会長からのコメント

甲南山岳会ホームページ 掲示板より

山岳会総会、慰霊祭延期について

2021年 3月28日

甲南山岳会会員の皆様

桜満開の季節となり、例年は4月に総会、慰霊祭を開催してまいりました。

しかし昨年に続き新型コロナの第四波の兆しやワクチン接種も未だ一般には行われず、先行きが見通せません。

そこで誠に残念ですが今年も山岳会総会、慰霊祭を延期させていただきます。

状況が好転し開催が出来る様になりましたら案内をさせていただきます。

会員の皆様と総会での再会を楽しみしております。

それまで皆さまの健康を祈っております。

甲南山岳会会長 平井幹男

「総会」「慰霊祭」「秋の集会」中止のお知らせ

2021年7月24日

甲南山岳会会員の皆様

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大や豪雨災害が続き、ご不便な生活を余儀なくされている方もおられることかと存じます。

さて例年4月に開催しておりました総会・慰霊祭は、これまで延期としておりました。しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。ご参加をご検討いただいていた皆様には、ご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございません。また、併せて秋の集会についても本年度は中止とさせていただきます。何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。今後も混乱は続くと思われませんが、会員の皆様にはこの難局を乗り切っていただきますようお願い致します。このコロナ禍が落ち着きました際には、改めてイベントの開催を発表させていただきますので、その際には奮ってご参加ください。

甲南山岳会会長 平井幹男

ー ホームページから ー

掲示板ダイジェスト 今年「集い」がありません

山系・書籍系・道通系・コロナ系などとりまぜで

2020（令和2）年4月～2021（令和3）年3月

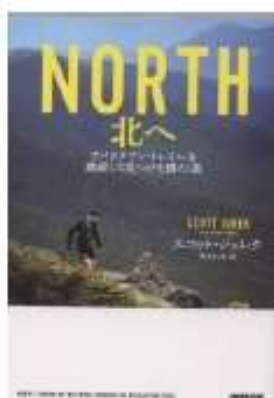
一人慰霊祭 山本恵昭 2020年4月27日
いつもの裏山散歩も人気が出て、3密を避けることが出来そうにない。ということで、バイクで高座の滝下まで行き、ロックガーデン慰霊碑へ。高座の滝は人だらけでしたが、この辺りは余り人がいない。どなたかが下草を薙って、綺麗になっていました。そのあと、コシアブラのポイントへ。ちょっと開き過ぎのものが多いけど、そこそこ収穫。しばらくすると、人が現れた。こちらの気配に気付いて歩みを止めるあたり、なかなか怪しい。よく見ると、手には長物を入れた布袋。これは、高枝ばさみに違いない。それにはかきません。3密を避けて山の人口密度が高くなると、秘密ポイントの密もなくなっていくます。



お勧め本 越田和男 5月3日
山へも行けない、旅も出来ない、家から出れない。アマゾンから本でも買って読んでみては如何でしょうか。比較的最近に読んだ本3冊。① マーク・アダムス著 森夏樹訳『アラスカ探検記』—最後のフロンティアを歩く—青土社 2019年9月 2600円 著者は作家、ジャーナリスト、編集者。100年以上前の鉄道王ハリマンが巨額の私費を投じて組織し

た探検隊、それに参加した国立公園の父といわれたジョン・ミューアらの足跡を追いながら、現代のアラスカを旅して綴ったノン・フィクションである。アラスカの文化、歴史のおさらいにもなる。日経新聞に書評あり(2019年10月19日)。② 伊東精一著『俺のアラスカ』—伝説の日本人トラッパー—が語る狩猟生活— 作品社 1月 2200円 アラスカついでにもう一冊。1940年東京生まれの著者は78年以來アラスカに永住。先住民から譲り受けた猟場で、数十年罫猟師として生活した体験記であるが、彼が本を出したかったわけではなく、彼の元妻が、長年貯めた彼の口述テープをもとに、彼の了解の得て上梓したもの。フロンティアの荒っぼい臭気ムンムンとした人間像が興味深い。あまり期待せずに読んだが面白かった。朝日新聞に書評あり(2月22日)。③ スコット・ジュレク著 栗木さつき訳『NORTH 北へ』—アパラチアン・をトレイルを踏破してみつけた僕の道— NHK出版 2018年9月 2000円 米国東部の長距離自然歩道、アパラチアン・トレイル全3500キロを四十数日かけて単独一気通貫で駆け抜けた、最速記録ランナーと彼を献身的にサポートした妻の手記。体調のくずれ、悪天候などと、これでもか、これでもかと遭遇して挫折寸前に追い込まれる心理描写、要所要所での仲間の助言、トレイルを支える地元民の文化など興味深い。日経新聞に書評あり(2018年10月20日)。





お勧め本（2） 越田和男 5月10日

皆さん如何お過ごしでしょうか。外出自粛が長引きそうなので、お勧め本を追加しておきます。4 久保州子著『アルプスの画家セガンティーニ』論創社 2019年5月 3000円山好きの人でセガンティーニのファンは多いようですが、アルプス山中の山小屋で41歳の生涯を閉じた、このイタリア人画家の生立ちはあまり知られてません。スイス在住の日本人著者による、徹底調査で纏められた伝記で、知られざる生涯がその作品と共に紹介されている。5 神長幹雄著『未完の巡礼』-冒険者たちへのオマージュ 山と溪谷社 2018年3月今は亡き戦後の日本人冒険家、登山家六人(植村直己、長谷川恒夫、星野道夫、小西政継、河野兵市、山田昇)との交流を語るとともに、彼らのゆかりの地を訪ね歩いて得られた冒険者たちの素顔をつづったもの。著者は『山と溪谷』の元編集長。日経新聞に書評あり(2018年3月24日)。6 ドニー・アイカー著 安原和見訳『死に山』-世界一不気味な遭難事故《ダイアトロフ峠事件》の真相- 河出書房新社 2018年8月 2350円旧ソ連時代の1959年、厳冬のウラル山脈で9名の学生隊全員が、原因不明の凄惨な死を遂げた謎の遭難事故。アメリカ人映像作家である著者の現地徹底調査による50年ぶりの掘り返しと推論の書である。ソ連時代の登山事情と学生登山活動の在り様が語られ、事故原因の科学的な推論結果とともに興味深い。



越中から見た鹿島槍 飯田進 5月12日

コッシンのように読書する根気も無くなったので、新聞で。今朝の新聞に 東京特派員 の湯浅博なる方が、寄稿されていた中で、後立山連峰を望む北陸の越中から、鹿島槍ヶ岳の稜線がまだ雪を頂いても富山湾は穏やかな春涛であった。とはじまり富山でホタルイカ漁が終わるころ、険しい後立山連峰でも雪解けが始まる。で終わっていた。新聞紙四分の一ページあるコラムである。これどう読んでも、越中から後立山連峰が眺められ、鹿島槍が見えている、としか思えない文章である。小生浅学にして、うかつにも越中から鹿島槍が見えるの知らなかった。何方か何処から後立山連峰が眺められるのか、教えてくださいませんか。

山本恵昭

飯田さん、検索してみると、入善町と高岡市から見えるそうです。

<https://japanknowledge.com/introduction/keyworld.html?i=674#header> ついでに、後立山というのは山脈の名前と思っていましたが、もともと富山から立山の後に見える鹿島槍ヶ岳のことだそうです。なるほど！

飯田進

山本兄、有難う。まさか越中から鹿島槍が見えるとは、思っていませんでした。去年の雪見会で、親不知から劔の見えるところを探して南下、見えたのが魚津でした。劔から西に連なる前山が邪魔していて、そうなったのですが、あの時前山の左手に鹿島が見えていたのかも。今度行ったらよく見ておきます。それにしても、日本人は日の出を大切にしようで、小生の育った、泉北郡高石町立羽衣小学校の校歌が 紫におう金剛の、峰に朝日の輝けば、ちぬのうらわの霧晴れて、千歳の松ももるとともに、つきぬ喜びみちあふる。と歌ってます。なにせ、ひのいずるところの、天使のお国ですからね。

こんな本が出てます 越田和男 7月30日

山本高樹著『冬の旅』—ザンスカール、最果ての谷へ— 雷鳥社 4月 1800円インド、ジャム・カシミール州南部のザンスカールといえば、40数年前に甲南山岳部の後輩が2度にわたり踏査したことがある。1975年は森(鷹巣)和則、松本好博の両君(1)。これが後のキシュトワール遠征に繋がり、1977年第一次キシュトワール遠征の後には、南里章二、松本両君が再び訪れた記録(2)がある。(1)『山岳寮』31(1976)、『時報』XIII(1978)(2)『山と溪谷』474(1978)『岳人』369~371(1978)『朝日新聞』昭52.10.28.そんなことで興味をもって読んでみた。今回の著者の旅は、厳冬期に凍結して徒歩での通過が可能となるザンスカール谷のゴルジュを経由して、最奥の村のチベット仏教寺院で行われる冬の祭礼を訪ねるもの。著者と現地人ガイドと助手からなる一行3名でのなかなか厳しい4週間に及ぶテント、岩屋、民家での宿泊を重ねる『冬の旅』の様子が文と豊富な写真で伝わり、読みごたえがあった。



槍ヶ岳山頂 山本恵昭 8月2日

ただいま槍ヶ岳山頂にいます。とても良い天気。どっちを向いても、絶景！



槍ヶ岳 山本恵昭 8月5日

8月1日2日、土日利用の1泊2日で、新穂高からの槍ヶ岳登山でした。白出沢出合から槍平までの間、大雨の影響か地震のためか大きな落石が有って、一部迂回路となっていました。飛騨沢は雪のないときに来るのは初めてでしたが、登りも下りもしんどかったです。スキーならあつという間に着くのに。槍ヶ岳山荘テント場で、テントを張り終えた頃はガスっていましたが、夕方晴れ間がのぞきました。テント前の岩の上で2時間ほど、山を眺めてボーと。日曜の朝は快晴で、明るくなって登り始めると、ちょうど山頂で御来光。またまた、山頂で1時間ほど山を眺めて過ごしました。とても贅沢な時間を過ごすことができました。新型コロナウイルス対策で、山小屋は完全予約制。そのためか、比較的、混雑のない槍ヶ岳でした。下山後の楽しみにしていた無料露天風呂は全て閉鎖。観光案内所で、福地温泉の不動の湯を教え

てもらい、入ってきました。古民家を改装した素朴な温泉で、なんと300円。まだ筋肉痛が続いています。



越田和男

山本恵昭さんへのお返事です。流石に筋肉痛とありますが、還暦過ぎても相変わらずの健脚ぶりですね。新穂高から一泊二日で槍往復、しかも幕営用具一式を槍の肩まで担ぎ上げてとは。コロナ如きに負けず、定年後のバラ色の10数年を楽しんで、老人に聞かせて下さい。小生若かりしころ(昭和40年9月)槍平から槍へ登ったことがありましたが、槍平と双六の小屋泊の二泊三日で、結構しんどかったです。どちらの小屋も宿泊者ほとんどなく、静かな山旅でした。また、それより以前、現役時代、肩の小屋の冬季小屋で何日か風雪で閉じ込められ、凍り付いた小屋の扉が閉まらず、エライ寒い目にあったことなどを思い出させてくれました。

飯田進

槍ヶ岳には三度目の挑戦で成し遂げました。一回目、一年の夏季合宿。剣合宿を終えて、穂高までの縦走途中、槍に到着。ところがこの日八月の第一土曜日。行列をなした登山者を、係員が笛を吹きながら、はいここまで、次に方並んで、と整理していた。で通過。この日北穂高の山小屋も超満員、北穂のてっぺんでテント被ってごろ寝。明るく朝登山客に足を踏まれて起床。二回目は、三年の時、10月の終わりころだったと思うが、福田君と二人で、湯ノ又で温泉に入ると、シャベ

ル担いで天上沢経由で槍へ。湯ノ又ではお湯は沸いていたが、湯船はなく、シャベルで掘ろうとしたが、小石が邪魔で掘ることかなわず、仕方なく手で石ころを集めて、湯船づくり。ようやく一尺の深さの湯船をこしらえ、寝転んで湯あみ。あくる日、天井沢のテントサイトから、槍へ。この日槍ヶ岳は青氷が張っていた。ザイルもないし、滑ったら怖い、止めとこ、で集合地の山高地へ。三度目は、随分経って。50歳前か。前田館夫婦と近所の民宿の女将さんと、同宿していた仲辻(この男、前穂のDフェースを登った無類の酒好き)、コースは表銀座。真夏、中房温泉からの急登、やっとたどり着いた稜線に、生ビールの旗が立って、おっちゃんが売っていた。これ飲まずにおられようか、仲辻は早くもポケットに手を突っ込んで、銭を出していた。コップ一杯千円。高いけれどもやらない。二杯飲んで燕登頂断念、この日西岳の小屋に泊まる。あくる日は快晴。登山者もまばらで、快適、登頂。帰り、せめて三の又まで飲むのを止めような、と固く誓ったのに。仲辻が槍沢降りだしてまもなく、雪溪から湧き出た清水を見つけたら、ウイスキーを取り出して、座り込んだ。おかげで山高地の遠かったこと。

山本恵昭

さすが名峰槍ヶ岳。皆様、いろいろな思い出をお持ちですね。私の初めての槍ヶ岳は、高校夏合宿の裏銀座。烏帽子岳から槍ヶ岳まで縦走し山高地に下山しました。穂先に登ったはずですが、あまり記憶にありません。実は、そこから先の印象が強すぎて。槍ヶ岳から先に聳える穂高の山々を見て、あそこにも行きたいという衝動がめめらめらと。引率の宮崎先生に頼み込み、食料を少し分けもらって槍沢を下る皆と別れ、独りで穂高へ。浮石だらけのキレットに緊張しながら北穂高岳を越え、奥穂高山荘に素泊まり。翌日、奥穂高岳、前穂高岳からの絶景を楽しみながら、重太郎新道を下りました。山高地の河童橋にたどり着くと、先生が待っていて笑顔で迎えてくださったことがとても印象に残っています。今では考えられないことですね。何かあったら責任問題。今思

えば、なんと我がままな生徒だったのでしょうか。でも、そんな我がままを包み込んでもらえる甲南の大らかな雰囲気ですぐに感謝しています。

納涼沢登り 山本恵昭 8月14日

8月13日、大森さんと近場日帰り沢登りに行ってきました。お互い年寄りなので、早起き。早朝にLINEでサクッと打ち合わせて、千が峰の三谷へ。ロープを出すのもめんどうなので、雄滝だけ高巻きました。お手頃な小滝が次々と連続して現れ、シャワークライムが気持ち良い。暑いので、山頂はカット。沢登り1時間、沢水に足を浸けて昼食、下り登山道を20分。お手軽、納涼祭り！でも、帰ると、やっぱり暑い。



35年 平井幹男 8月14日

先日、日航機の事故をテレビで見て、もう35年か？日航機の事故でなく藪内君の遭難からそんなに時がたったのかと思います。その時の事がよみがえりました。藪内君の遺体が発見され、黒部側の大滝付近から搬出するヘリコプターの手配をするも、日航機事故のマスコミにヘリコプターをほとんど取られ、やっと見つけたヘリコプターで現地の松下君らのご遺体をシュラフに入れ扇沢までヘリコプターで搬出、大町のお寺に運びお通夜を執り行いました。遭難からお通夜、火葬場まで流行語では無いですがワンチーム、甲南山岳会がOBから現役まで一つになった時でした。蛇足

ですが今の山岳会の執行部のメンバーはその時の中心メンバーです。このコロナ騒ぎがおさまったらもう一度、山岳会もあの時の様に又集まりましょう。

妻籠 飯田進 8月21日

妻籠から馬籠の宿へ行ってきました。

夏の日や 家内で憩う 妻籠宿
馬籠にも行ってみましたが、同じでした。皆さんたっぷりお休みされてるのですね。



掲示板へのお誘い 平井 幹男 8月23日

まだまだ新型コロナウイルスや猛暑が続く中皆様には元気にお過ごしでしょうか。春の総会、慰霊祭そして秋の集会在中止になって会員の皆様の相互連絡が思うように取れない、あの先輩方や後輩達はどのようにしているのか等、自由に集まれる機会が無い、山にもなかなか行く機会が持てないと思います。そこで先輩の方からの山岳会の掲示板をこんな時こそもっと活用すべきであるのご提案をいただき皆様の投稿をお誘いいたします。山行はもちろんのこと旅先でのエピソード、庭に咲いた花や野菜の栽培、隣の猫の話でもかまいませんのでどしどしご投稿をお待ちしております。こんな時ですので皆様にはご自愛ください。

近況報告 塩崎将美 8月23日

コロナ騒ぎが始まってから大山に籠ってます。パブルに浮かれて建てた小屋ですが今は有って良かったと思ってます。。って良かったと思ってます。神戸より感染リスクは少ないでしょうし好き

な自然の中でノンビリ晴耕雨読の生活です。毎月の通院は検査のある時はしかたないので神戸の病院へ行きますがそれ以外は電話で処方箋を頼み近くの薬屋にファックスしてもらい薬をもらってます。毎年行っていた海外旅行に行けないのが悔しいです、何時になったら自由に海外へ行けるのでしょうか？2年先？その時体力が残ってる様にと毎日一万歩を目標に歩いてます。

蓮 **飯田進** **8月24日**
朝五時に起きて、蓮の咲くのを見物に行ってきました。



箱館山 **福田信三** **8月26日**
箱館山少しは涼しいかと思い、出掛けました。冬はスキー場で夏は山上の遊園地。冬の雪不足を夏の有効利用で解消しようとの魂胆？ なかなか名案と言えます。
平日の割にはそこそこの人出でした。しかし、私にとっては植栽、遊興設備など一切が人工的で馴染み難いです。ところが若い女性には好まれワイワイ、キャッキヤ、特にインスタ映え写真が目的のようです。中でも、LAMPカフェではランブシェードに入ったパフェが大人気、1500円には参りました。帰途、三井寺(園城寺)に寄りましたが駐車料金500円、境内入園料600円には驚きです。蒸し暑い中、園内散策はあきらめました。名神などの道路は渋滞無しで、やはり出かける車の数が少ないのでしょう。



立山黒部アルペンルート **福田信三** **9月 7日**
立山黒部アルペンルートGOTOキャンペーンの利用で行ってきました。列車、ホテルがガラ空きで、旅行者にはありがたいです。おまけに、約30%の値引き。但し、今回はパートナーとその友人たち同行でやや疲れましたが、この辺りは在学中のテリトリーでしたが、当時、50年以上前の状況からは想像できない変わりようです。しかし、白馬、立山、室堂平、弥陀ヶ原等々の自然は今まで通りでありありがたいです。登山から観光に転向して十数年、若者の登山姿がうらやましいです。写真は添付WEBをご覧ください

近況 **廣瀬健三** **9月14日**
今朝は涼風が吹き やれやれでした。ほんと暑い日々です。お蔭様で元気で、テニスやったりコーラス歌ったりしてます。来る9月24日はjacの山歩き、久しぶりに山靴を履きます。同じトラ年生まれが三人おり、これまた楽し。

正沢川細尾沢 **山本恵昭** **9月22日**
9月20日21日で、細尾沢に行ってきました。秋の集会の駒王の上の方です。釣り具を持っていきましたが、出さず。イワナを見たのは1回だけで釣り荒れてい
る感じ。大滝は左岸をあっさり高巻き。その後は、お手頃小滝のオンパレード。2330m付近でビバーク、焚き火三昧。残念ながら、イワナ無し。翌日、沢をつめて、ほぼ藪こぎ無しで、木曽小屋に。木曽駒山頂は人混み！下山は、Bコース。劇下りで

膝ガクガク。駒王下の天神温泉で汗を流した後
に待っていたのは、大渋滞。木曾路も高速道路
も、赤いドットライン。ふて寝して、深夜に帰まし
た。天気にも恵まれ、白い花崗岩の明るい谷を楽
しました。



福田信三

山本さん、いつもへーっと思う投稿ありがとう。あ
んまり元気だから俺といくつ違うか計算。56-39
=17 79(私)-17=62歳今まで貴記事を見る
時はいつもすげーなーと思って読んでいました。
62歳は超還暦でしょ、年齢じゃないんですね。
次を待ってます。

映画"クライマーズ" 福田信三 9月29日

中国製作の映画で、中国の登山隊が初めてチョ
モランマ登頂に成功した1960年と、その事実が
西欧諸国に認められないまま15年の不遇な歳月
を過ごし、1975年に二度目の登頂に成功したチ
ームの苦難と葛藤、そしてその中で紡がれてい
く愛の物語。ノンフィクションのようなラブロマンス
のような？認められない理由は頂上からの360
度写真が無かったためとのこと。登頂途中雪崩
に遭いカメラを失ったため。二度目の登頂のもう
一つの目的はエベレストの標高を中国技術で測
定するためだった。結果は8,848m。1954年にイ
ンド測量局が周辺12か所で測定し、その結果を
平均して得られた8,848メートルという数値が長年
一般に認められてきた。1999年、全米地理学協

会はGPSによる測定値が8,850メートルだったと
発表した。厳密には地殻変動などの影響によっ
て標高は年々変動していると考えられている。(ウ
イペディア)他の資料では、標高の測定は頂上に
堆積した氷雪を含める場合と氷雪無しの岩石ま
での2方法あって世界的に規定された方法は無
いようです。さて映画の最初と最後の画面はアネ
ハヅルがV字を描いてヒマラヤ山脈を越えていく
光景で、国境での争い、登頂の競い合いなどを
超えた自然の営みをアピール否誇示している
と感じました。最後にチベット側からのエベレスト
BCまでは車で行けます。ネパール側の場合はト
レッキングで数日かかりますので大違いです。更
に途中からの景色はエベレストのみが見え圧巻
と書いてありました。行くのなら空いている冬が
いいとのこと。

お伊勢参り

飯田進

10月10日

生きているうちに一度は参らねばならぬ、お伊勢
参り。伊良湖岬からフェリーで鳥羽へ。そして内
宮、外宮と参ってきました。広い宮内にところこ
ろに建物があって、ほとんど撮影禁止。まあ千年
もの昔の建物。それが広い宮内にばらばらと立
っています。一番目立つのが、三重県の銘酒を
集めた写真の建物でした。



キノコ詣で

山本恵昭

10月12日

11日、兵庫県北部の山に。倒木は、ナラタケのオ
ンパレード。そして、森の宝石を発見。もう少し大
きくなったら、ナメコおろしに。



キノコ詣で **山本恵昭** **11月 2日**
 6週連続でキノコ詣で。マイタケから始まり、ナラタケ、ヒラタケと種類が入れ替わり、今はナメコの最盛期。そして、黄葉。昨日は知人家族を連れて扇の山に。図鑑持参の小学生は吸収力がすごい。すぐに特徴を理解して質問責め。浜坂での買い物。紅ズワイガニ、赤エビ、カレイ干物、そして、香住鶴冷やおろし！Go home 家呑み。ナメコおろしにナメコの佃煮、紅ズワイガニ。安くて旨い！



六甲の紅葉 **山本恵昭** **11月 4日**
 六甲修法が原の紅葉、始まっています。ほとんどはまだ緑ですが、数本は色づいていました。例年より赤が濃いような。今年は紅葉当たり年かも。



丹波の紅葉 **福田信三** **11月12日**
 丹波篠山市の北、丹波市(ややこしい)の高原寺、圓通寺の紅葉を巡りました。コロナ禍でもかなりの人出でした。



カニキノコ **山本恵昭** **11月15日**
 妻とカニキノコ会。林道からのお手軽ハイキングで白菅山に登り、周辺のブナ林でナメコとクリタケを収穫。もう葉を落として明るくなったブナ林で、落ち葉を踏み締めるカサカサという音が心地良い。浜坂まで行って、カニ、エビを購入。10月は紅ズワイガニでしたが、今回はズワイガニ。足欠けでお値打ち価格。生きていたので、足を数本お刺身で味わい、爪と甲羅は蒸しガニに。セコガニも。そして、香住鶴。今回は冬季限定しぼりたて生酒！同じ香住鶴でも、銘柄によって個性があり面白いですね。車中泊の旅ではGo toの恩恵はまったくありませんが、プチ贅沢を楽しんでいます。



白髪山と二つの工石山 山本恵昭 11月25日

この連休は、高知の山に。本山町の帰全山公園キャンプ場に2連泊。無料なのに、トイレが綺麗でウォシュレットも。22日日曜日は、白髪山から奥工石山。白髪山は、天然ヒノキの遺伝源保存林。台風で鍛えられた木々が逞しい。奥工石山は、岩が多く少し険しい。山頂南面に紅簾石という変成岩の大露頭。23日月曜日は、工石山。高知市最高峰は、土佐湾から室戸岬まで一望の展望台。スーパーで、面白い地元食材を発見。「ニロギ」と「てつ干」。炙って嚙り、土佐鶴しぼりたて新酒をグビリ！旨い。機会があれば、お試しあれ。



雪国 飯田進 2021年 1月16日

越後筒石から富山経由 五箇山 白川郷へと行ってきました。どこも数十年ぶりの大雪とかで、雪下ろしにいそしんでおられました。上から、筒石の街中、五箇山と白川郷。千キロの旅でした。

芦屋市の最高峰 越田和男 1月29日

生まれ故郷の芦屋のことながら、蛇谷北山 840m というのを知りませんでした。若いころ東六甲の山や谷は随分歩き尽くした気になってましたが、恥ずかしながら初耳です。山の雑誌の読者投稿欄に短信があったので、NETで調べてみた次第。東おたふく山から石宝殿にいたる稜線上のピークで、芦屋市役所の広報には山頂の表示板の写真もありました。東おたふく山登山口バス停から50分程で行けるそうですが、横浜住まいの老人には今や遠い存在となってしまいました。誰か行かれた方があれば、様子など教えてください。

南里章二

先程、「芦屋市の最高峰」に登ってきました。「ここは蛇谷北山 840m です。芦屋市 Mt.jatanikitayama 840m above sea level」という標識が狭い場所にありました。ここ20年ほど月に2～3回東お多福山周辺を歩いています。石宝殿に行く道を途中から左に10数m入ったところがあり、今まで気づかずに通っていました。残念ながらカメラが電池切れ(ここ一年ほど海外に出れずほったらかしにしていたので)でしたので写真はありません。次回は充電していきます。

越田和男

蛇谷北山の登頂報告有難う。英文の標識が何だかおかしいですね。東おたふく山へ月に数回も行ってるとは羨ましいです。一時灌木に覆われて、かつての草原の風情が無くなり、それを元の草原に戻すというボランティア活動があったと聞き及んでますが、現状は如何に？古い写真を添付しました。1958年11月、小生大学2年の時のものです。今は亡き柏木、大関、倉藤らが写っています。



南里章二

先程、蛇谷北山に登ってきました。昨日まで冷え込んでいましたので登山道にはまだ雪が残っていました。東お多福山では毎年秋にクマザサなどの刈り取りがシニアボランティアによって行われています。そのおかげで景観はほぼ昔のままです。

越田和男

蛇谷北山の山頂は眺望もなく一寸寂しげですね。東お多福山がもとの景観に戻ったのは何よりです。ついですが、あの辺りの古い写真をもう一枚添付します。ねこもり谷左岸にいい岩場があり小生OBになって数年経ったころに何度か出かけた岩の基部で、今は亡きガチャさん、美田さんの他懐かしい面々が写っています。



ご無沙汰しています 柏 敏明 2月13日
コロナのお蔭で、どこへも行けず、時々、泉南の山中にある温泉に日帰りで行って憂さを晴らして

います。越田さん、懐かしい写真を有難うございます。前列左から(敬称略)越田、田辺、井本、柏、伊丹、美田。後列 二谷、水渡、前が浪川の諸氏だと思います。先日、図書館でフリークライミング 日本100岩場 東海・関西編(北山真編 山と溪谷社)を見ました。各県の岩場の紹介があり、兵庫は北山公園、堡塁岩、不動岩、烏帽子岩等がルート図と共に紹介されていました。北山公園岩場は甲陽園から徒歩15分とありましたが、小生は全然知らない岩場でした。小西さんに聞くと、岩はせいぜい3m位までで、子供の頃は遊び場で、最近になってボルダリングで人気が出てきているそうです。堡塁岩は芦屋ロックガーデンと並び、国内で最も古くからロッククライミングがされていた岩場と紹介があり、東稜、中央稜、西稜等のルートの解説が載っていました。只、70年代後半から、フリークライミングの影響で、ホールドを叩き潰すチップングが行われ、オリジナルルートが消滅しているとの説明がありましたが、けしからん話です。裏六甲では不動岩が詳しく説明され、百疊岩は何も解説なしでした。巻末に岩場一覧があり、仁川はパール岩が崩壊、甲南バットレスは阪急岡本駅から徒歩20分、八幡谷からすぐ左にあるとのみ紹介されていました。写真は玄関脇のキンモクセイの中にあった蜂の巣です。結構、大きいでしょう。昨日取りましたが冬前に蜂は全て出て行ったらしく、一匹もいませんでした。蜂蜜もありませんでした。



ロックガーデン 山本恵昭 2月15日

昨日、ロックガーデンへハイキング。地獄谷から万物相、A懸岩とまわってきました。地獄谷は小滝が次々と現れ、直登してちょびりスリルを楽しみました。万物相まで来ると、結構ハイカーが。昔、仲間内では月の墓場と呼んでいたのに、いつの間に万物相と呼ばれるようになったのでしょうか？何かしっくりこない。ボロボロの岩峰を登ったり下ったり、岩溝でメタボチェック。楽しい。A懸岩は健在。一般登山道に合流すると、人がいっぱい。高座の滝はさらに密。ふと横を見ると面白い大明神がありました。今まで何十回も来ているのに、気が付きませんでした。



コロナ籠りにどうぞ 福田信三 2月15日

今夜の映画紹介シネマ「127時間」＜字幕スーパー＞＜レターボックスサイズ＞[BSプレミアム]
2021年02月15日 午後9:00～午後10:35 (95分)
落石に腕を挟まれ、身動きできなくなった登山家。極限状態から脱出できるのか……。奇跡の実話をダニー・ボイル監督がジェームズ・フランコ主演で描くサバイバル・ドラマ。番組ページへ出演者ほか【監督】ダニー・ボイル、【出演】ジェームズ・フランコ、アンバー・タンプリン、ケイト・マーラ、【原作】アaron・ラルストン、【脚本】ダニー・ボイル、サイモン・ビューフォイ、【音楽】A・R・ラフマン
詳細登山家のアaronは、ロッククライミングを楽しもうと、一人ユタ州のブルー・ジョン・キャニオンに向かう。ところが落石に右腕を挟まれてしまい、身動きがとれなくなってしまう。刻一刻と時

間が過ぎるなか、絶体絶命の極限状態から脱出できるのか……。思わぬ事故で究極の決断を迫られた登山家の奇跡の実話をダニー・ボイル監督が映画化。主演のジェームズ・フランコのこん身の演技が印象的な、手に汗握るサバイバル・サスペンス。

飯田進

福田君、その映画の似たような話、我が山岳会にもありましたよ。場所は 晩秋の毛勝 下山途中に仲間の一人が滝壺へ、うつ伏せになった足の上に、大きな岩がのっかた。仲間が必死になって岩を動かそうとしが、びくともしない。体を引きずり出そうとしても、まったく動かない流れは胸から顎へ、助けてくれ、叫ぶ仲間。しゃーない、ピッケルで足切るか、これ本間にあった話でっせ。

福田信三

飯田さん驚きです、そんなことが身近にあったなんて？それで、結果はいかがだったんですか？

飯田進

結果は、足を切る前に、もう一度みんなで引っ張ってみよう、ということで、引っ張ったらすっぽと抜けたそうです。ピッケルで足切ったら、悶絶していたでしょうね。その時のメンバーは、半分は居ません。今頃平井先生と笑って話し合っているでしょう。

福田信三

ピッケルで足切断はぞっとしますが抜けてホッとしますね。思い出話は難儀な事ほど盛り上がりやすいですね。

春

飯田進

3月1日

精一杯 黄色く咲いた 福寿草
辰野の里で春を待つ 木曾駒ヶ岳
望岳荘から皆さん春はそこまで来てまっせ。



春が来た 越田和男 3月 3日

近所(横浜・港北区)に大倉山公園という一応『山』の名前の付いた里山がある。標高は岡本の保久良神社よりも少し低いくらい。頂上台地の窪みに梅園があつて、いつもの年なら梅祭りなどがあつて、賑わうのだが、コロナのお陰で今年は静かに楽しめた。



赤谷山の霧氷 山本恵昭 3月 9日

7日の日曜日は、兵庫県北部実粟の赤谷山に。なんと、今シーズン初めての雪山。戸倉トンネル横から取りついた枝尾根上にはすでに雪はなく、今年ははやくも雪山としての賞味期限切れかと。でも、標高1000m付近まで上がると、素晴らしいご褒美が用意されていました。ガスに包まれた幻想的な森の中、針のような霧氷に心が研ぎ澄まされる。山頂に着く頃には、次第に天気が回復し青空が広がっていく。北を向

けば、雲海の向こうに氷ノ山。南には三室山。風も収まった山頂で、ぼーっと過ごす1時間半ほどの贅沢な時間。あれほど綺麗な霧氷でしたが、下るときにはもう溶け落ちていました。儚いですね。



伊豆 飯田進 3月21日

春の富士 大海原に ふうわりと。伊豆半島を廻ってきました。下田の夜は、ビジネスホテルに泊まって、近所の温泉にたっぷり浸って、あとは生ビール、おかずは刺身の五種盛り、鰹のナメロー、タコのから揚げ、仕上げはレモンサワー、店の名前が、なかなか。味もなかなかのものでした。



編集後記に代えて

寄稿のお願い

皆さんからの原稿をお待ちしています。
最近の山旅、学生時代のこと、行事に参加して、などジャンルを問いません。
最近山に行っていないからムリ、とお思いの方。
甲南山岳会は若い時に一緒に山に登ったメンバーの仲良しクラブ、と私は思っています。
仲良しクラブの会報です。
山以外の原稿大歓迎です。
来年は貴兄からの原稿をお待ちしています。

山嶽寮 編集長 塩崎将美

原稿宛先
電話/FAX
Eメール

山嶽寮 第76号

甲南山岳会

神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学内

2021年(令和3年)10月

編集人 塩崎将美

印刷 (株)春日